



(第54号)

発行：〒260-0853 千葉市中央区葛城1-5-2 千葉県立千葉高等学校同窓会 同窓会長 林 孝二郎 TEL. 043-239-5550 FAX. 043-239-5551 印刷：有限会社 プリントピア TEL. 043-301-6500

ご挨拶



同窓会会長 林 孝二郎 (昭和39年生)

千葉高同窓会の皆様、新緑がまぶしい季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。 常日頃から同窓会事業にご協力をいただき感謝申し上げます。

年明け早々からトランプ大統領の言動により世界の政治、経済に大きな動揺が広がっており、また国内でも国会では与野党の勢力伯仲によりこれまででない大きな予算修正が行われるなど、時代の転換点を感じる今日この頃です。 先般、埼玉県での下水道から

の漏水による道路陥没事故が大きなニュースとなりました。 今後、老朽化した公共施設の改修が大きな課題となってくると思われ、母校の現状を見ると学校の施設設備についても同様の感を抱かざるを得ません。 国の新年度予算により、私立も含め高校授業料の無償化が進められるとされておりますので、私立高校の設備との彼我の差により公立高校離れがさらに進むのではないかと危惧されます。 千葉県では施設・設備の老朽化対策やバリアフリー化などのため「県有建物長寿命化計画」に基づき県立高校の改修を進めていると

ころと聞いておりますので迅速な改善が行われることを期待しております。

さて、昨年の同窓会の活動を振り返ってみますと、コロナウィルス感染の影響も少なく、総会・懇親会、成人記念同期会を含めすべての計画した事業を進めることができました。 また、各地域や職場の葛城会やOB会、同期会も活発に開かれるようになりました。 同窓会報については8500部印刷し総会等の会合でお配りしたほか、6300余を個別にお送りしております。 会報へのご寄付も昨年を越えることができました。 今年に入って1月には令和5年卒業生の成人記念同期会を実施し、2月の総会・懇親会では幹事学年の昭和58年卒のお二人の講演の後、同窓の親睦を深める楽しい時間を過ごすことができました。

1月28日に開かれた同窓会定時理事会では昨年度の事業報告・決算報告、今年度の事業計画・予算の審議のほか、同窓会会則と細則の一部改正を行っております。 改正により事務局及び常設委員会、常務役員会の拡充を致しましたので、同窓会活動がより円滑かつ活発に進められることを期待しております。 このほか、理事会では、令和10年(2028年)に迎える母校の創立150周年に向けて同窓会としての事業について検討を進めるようご要望を受けました。

これまで同窓会では母校の100周年の際の記念誌発行や講堂の改修復元事業、125周年にはトレーニングルームの新設と80周年記念館(美術館)や図書館トイレの改修工事などを実施。 また、135周年には第2運動場を新たに建設して学校に寄贈しております。

今後学校の方で、150周年に向けて記念イベントや記念事業の検討が進められると思いますので、学校側と十分相談しながら同窓会としての150周年事業を検討してい

同窓会報第54号 もくじ

Table with 2 columns: Item Name and Page Number. Includes items like 'ご挨拶', '校長報告', 'ご挨拶', '事務局報告', '支部だより', 'OB・OG会だより', '学年短信', '母校支援報告', '令和7年度定時理事会・総会報告', '葛城人脈', '令和7年度本部役員', 'チャレンジ応援基金について', '母校の活動報告/葛城だより'.

きたいと考えております。

大きく変わりつつある社会・経済の変化に対応して将来を担う人材をいかにして育成していくか、母校の教育現場ではご苦労が多いものと思えます。 同窓会としても母校教育の発展のために引き続き支援を充実していきたいと思っております。 よろしく願います。

最後になりますが、同窓の皆様のご健勝と各地域等での交流が以前に増して活発化することを祈念するとともに、本年も同窓会の運営に変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。 げご挨拶いたします。

県立千葉中学校・高等学校近況

校長 高梨 祐介



千葉高等学校同窓会の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に御支援をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

令和6年4月に校長として着任しました高梨祐介です。私にとって、歴史と伝統のある本校での勤務は初めてであり、身が引き締まる思いで1年間業務に取り組んでまいりました。特に、生徒や教職員にとって安全で安心な学校であるよう教育環境の整備と生徒の健康な心身の育成に力を入れてきました。

教育環境の整備については、令和6年度は、県教育委員会の担当課へ予算等の要望を申し入れ、その範囲内のできる限り行いました。令和7年度以降、本校は長寿命化・大規模改修事業

の対象となっております。現在、県教育委員会と相談しながら進めているところです。改修期間中は仮校舎等を建設して工事を進めていく予定です。

生徒の健康な心身の育成については、学校内での生徒情報の共有や教育相談体制の充実を行い、生徒・保護者に寄り添ったメンタルヘルスケアを行っています。また、状況に応じて、外部機関と連携しながら進めています。生徒・保護者が相談しやすく、信頼される学校となるよう取り組んでおります。

本校の卒業生は国内外の各方面で活躍されており、私がいまでもありませんが、各地域に同窓会の支部があります。私自身、同窓会の皆様方との繋がりを大切にしたいと思いが、同窓会の各支部等の行事や会合には、積極的に可能な限り自ら参加してきました。その際、多くの同窓生の皆さんとお会いし、貴重なお話しをたくさんお聞かせいただきました。

そのなかでも印象的であったのは、参加された皆さんが旧制千葉中学校・千葉高で過ごした時の様子やエピソードを、鮮明にまるで昨日あった出来事のように目を輝かせながら話していたことです。同窓生の皆さんの母校に対する強い思いや愛情をとて感じました。

令和6年度も同窓生の皆様には、「総合的な探究の時間」等をはじめ様々な場面で本校の教育活動に御協力いただきました。「総合的な探究の時間」では、6月に実施された1学年外部講師講演会で山崎真巳様(昭和57年卒)から「くすりをつくる植物を科学する」との演題で講演をいただきました。

また、10月に実施された2学年外部講師講演会「先輩に学ぶ」では、東寿浩様(平成12年卒)が司会を務め、講師として、山内真理様(平成11年卒)、佐々木俊介様(平成12年卒)、坂尾佑平様(平成17年卒)、長根山佑介様(平成17年卒)、松本華英様(平成17年卒)、小野口玲菜様(平成18年卒)、千代田修平様(平成24年卒)、保戸田末桜様(平成26年卒)にお越しいただき、現在の職業や仕事のことで、千葉高に在学してい

た時の話をされ、生徒は興味を持って聞いていました。他にも、「学部・学科説明会」「中学校社会人講演会」「進路指導部行事」等で、講演等に御協力いただいた同窓生の方々がたくさんおられます。紙面の関係ですべてを御紹介できないことを御容赦ください。公私ともに忙しいなか、母校の後輩たちのためにお時間を割いていただき、心から感謝申し上げます。この場を借りて御礼申し上げます。引き続き本校生徒の教育活動充実のために同窓会の皆様の御支援、御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

また、同窓会からは生徒の部活動への支援もいただいております。令和6年度は全国規模の大会に参加した囲碁部(全国高等学校総合文化祭出場)、書道部(全国高等学校総合文化祭出場)、地学部(アジア・ジュニアユースオリエンテーリング選手権大会出場)、競技かるた同好会(全国高校生かるたグランプリ出場)にお祝い金をいただきました。ありがとうございました。また、同窓会支部や各部活動OB会等から個々の部活動等への御支援もいただいております。重ねて御礼

申し上げます。話は変わりますが、本校は令和7年度で147年目となり、あと数年で創立から150年を迎えます。令和7年1月に開催された理事会では、理事の方々から、同窓会と学校が連携し、150周年事業の内容をしっかりと考え、準備し、成功させてほしいとの御意見等を多数いただきました。遺漏のないよう準備を進め、よりよい形で150周年を皆さんと迎えられたらと思います。同窓会の皆様におかれましては、本事業に御理解をいただき、お力添えをお願いできればと思います。どうぞよろしく申し上げます。

学校を取り巻く環境は、日々刻々と変化しています。本校もその変化に対応できるよう職員が丸となって教育活動を行っております。創立以来、培われた本校の伝統を重んじながらも、新たな流れを取り込んでいきたいと思っております。

今後とも、千葉県のフラッグシップ校としてのプライドを持って教育活動を進めてまいります。同窓会の皆様には、引き続き御支援、御協力を重ねてお願いいたします。

「次」へ



葛の花会前会長 永田 忠以
(昭和37年定卒)

場新設における地鎮祭で齋主としてつとめたことは、特段に思い出されます。

定時制同窓組織である葛の花会会長を、この度退任することになりました。今は亡き奥井前会長から引き継いで長らくとなりますが、皆様のご協力のもと、なんとか職務を果たすことができましたことを御礼申し上げます。

長い歴史と変遷を経て、現在は中高一貫となった母校であります。変わらぬ校風と伝統が守り続けられ、これからも名門校として後輩たちが受け継いでくれることでしょう。

これまでOBとして多くの記念事業などをお手伝いさせていただく機会に恵まれてきました。在校時を含め、千葉高にまつわる多くの思い出についてはこれまでの会報にでも紹介させていただきます。この退任にあたり振り返りますと、第二運動

ご挨拶

葛の花会会長 志賀 吉郎
(昭和38年定卒)

令和七年から、会長を務めることになりました。志賀でございます。

私が葛の花会に出席することとなったのは、奥井会長の時でした。同期の平野君に誘われて、はじめての会場が「梅松家」という料亭でした。

以来毎年同期の牧口など数人と参加し旧交を温めておりました。さらに永田会長が就任されたときに、同期の平野が事務局長に指名され、私も事務局として従事してまいりました。

その後、平野事務局長の体調不良により、事務局を引きついでもいりました。

今回は永田会長の急な引退に伴い小学校からの先輩でもあることから、会長を引き受けることといたしました。

会則には顧問を置くことができるとなっており、今まで恩師の先生に顧問をお願いしてまいりましたが空席のままです。

そこで、今年度から長年空席と

なっていた顧問を永田前会長にお願いすることにいたしました。この葛の花会の会員は平成20年を最後に、新規加入がなく、今後は高齢化が進んでいきます。このような状況の中で、会員の

把握が困難な状況になっていきます。今後は、同窓会事務局と葛の花会事務局との連携を緊密に図るために、先田幸次郎(昭和49年卒)と山本誠司(昭和59年卒)の両名をお願いしています。

今後も葛の花会を毎年開催できまますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

同窓会事務局報告

同窓会事務局長 阿佐 幸雄
(昭和35年卒)

私(昭和35年卒)が平成18年(2006年)に同窓会事務局長を拝命して今年で20年になります。その間3回寄付募集の活動を行っています。

150周年に向けて

高梨校長先生も書かれているように、明治11年(1878年)創立の母校は令和10年(2028年)11月に創立150周年を迎えます。

石田、清水の両基金をどう活用できるか、千葉県の長寿命化・大規模改修事業の動向を注視しています。同窓会の希望では千葉高校の象徴とも言える昭和2年6月竣工の講堂をリノベーション

して後世に残そうと考えているからです。私が平成18年(2006年)に同窓会事務局長を拝命して今年で20年になります。その間3回寄付募集の活動を行っています。1回目は125周年記念事業の目標額5,000万円に対し5,622万円、2回目は130周年に教育環境整備のための募金で440万円、3回目の135周年は新運動場を造って母校に贈る事業で、目標額7,500万円に対し7,721万円と3回の寄付募集を行っています。

周年記念事業と言え、寄付募集がつきものですが、資料作成や

送料など大きな投資が必要です。第1回と第2回は同窓会名簿の発行の際、同時に行っています。

現時点で住所が判明している23、440名に記念事業の趣意書を送ることを考えると、相当な覚悟と準備が必要であり、早々に体勢を整える必要を感じます。

125周年事業の時は、丸事務主幹。新運動場整備事業の時は千葉良夫事務主幹が国税局への減免申請や寄附金の集計、減免申請のための領収書発行など日々の事務処理を行ってくれました。常に学校において目を光らせている方がいなければなりません。

同窓会本部の体制強化

同時に、同窓会本部の体勢を強化することも先決です。

手始めに今年の定時理事会で事務局次長を2名にし、常設委員会の正副委員長体制がようやく整ってきました。(最終頁を参照)事務局の先生の手を借りなければ同窓会は機能しません。数の減少は同窓会の危機です。人数を増やし、事務局の役割を分散して負担を減らすことが必要です。他校にいる同窓の先生を千葉高に呼び戻さなければ事務局員の数は増えません。

千葉高卒の教員情報を

教えてください！

会報寄付者一覧

1万円以上の寄付者名は太文字 (敬称略・卒年順)

昭和30年会

【参与・元校長】 鈴木 政男

昭和22年会

斎藤 喜久三 高橋 惟允 中江 利忠

昭和23年会

高長谷 禮司

昭和25年会

平林 一馬 矢島 肇

昭和26年会

能勢 仁 長谷川 信夫

昭和27年会

小環 猛夫 越川 道弘

昭和28年会

阿部 猛 安藤 伸治

昭和29年会

鈴木 弘道 仁藤 輝男

昭和30年会

宮原 暁 堀 登志也

昭和30年会

山下 庸明

昭和31年会

片岡 環之 塚瀬 輝雄

昭和32年会

小川 金壽 瀨田 寛子

昭和33年会

磯貝 正治 川瀬 實

昭和34年会

石井 豊信 長島 滯

昭和35年会

阿佐 幸雄 伊藤 英之

昭和36年会

林 功 長谷川 友善

昭和37年会

市原 忠雄 駒井 隆子

昭和38年会

石渡 堅一郎 須藤 正樹

昭和39年会

荒井 薫 大森 耕一郎

昭和40年会

藤倉 美智代

同窓会報の個別配布・寄付状況

Table with 4 columns: 年度, 令和6年度, 令和5年度, 令和4年度. Rows include 会報号数, 発行部数, 個別配布数, 寄付人数, 寄付金額.

※ 本年の第54号は、8,500部発行、個別6,500部の予定

- List of names and birth years for members who have contributed to the magazine, organized by year from 昭和36 to 昭和45.

- Continuation of the list of names and birth years for members, organized by year from 昭和46 to 平成5年.

支部だより

☆長生茂原葛城会

会長 菅原黎明

(昭和36年卒)

令和6年元旦に能登地方を襲った大地震は能登半島に甚大な被害をもたらした。被害状況はテレビで連日のように報道されました。破壊された街並みを見るとこれからの復興は大変だなど思われました。さらに令和6年9月21日よりこの地方を襲った豪雨災害は復興中のこの地方にまたしても大災害をもたらしました。このような災害は突然襲ってくるもので他人ごとではなく、災害に対する十分な備えを常に持つ必要性を再認識させられるも



のです。そして最近の気候はとて異常で、9月に入っても真夏日が連日のように続き私たちが千葉高に入学した時とは明らかに異なる気候を感じています。

さて、第66回長生茂原葛城会は令和6年10月5日(土)に茂原市の割烹竹りんにて現学校長の高梨祐介先生、同窓会本部副会長の森茂さんおよび同窓会事務局長の阿佐幸雄さんをお招きして開催しました。

菅原支部長の挨拶の後、阿佐事務局長による同窓会の現状として同窓会への寄付が順調で資金も十分にあり、きわめて円滑に運営されていることが説明されました。

続いて高梨校長より千葉高の現状についての説明があり令和6年の卒業生は309名で令和6年の国公立大学及び私立大学の入学者については学校案内を参照するように説明され、さらに最近、学校入り口の通学路の管理が生徒自身による自主管理でなされていることが話されました。阿佐事務局長による同窓会の現状は前述のとおりですが、長生茂原支部の参加者減少の現状を憂えてこの地区の活性化に本部としても協力してもらえらることとなりました。

森茂副会長からはご自身が令和5年度に瑞宝小授章を受章したことが報告されました。30年間

の千葉県庁での勤務が評価されたとのことです。受章時の高揚した感激の有様が直接お聞き出来ました。この度の受章誠におめでとうございます。

長生茂原葛城会の締めは校歌を斉唱します。皆で歌っていると若き日の出来事が次々に思い出されます。

☆東京葛城会

事務局長 桑野雄一郎

(昭和60年卒)

令和6年10月11日(金)、昨年に引き続き上野精養軒において第62回総会・懇親会を開催いたしました。

今年も幹事学年は設けず、幹事会のメンバーにより運営を行い、ご来賓の学校長の高梨祐介先生、同窓会副会長の池田知行様を含む合計42名の参加者により開催いたしました。

テレビ番組「開運!なんでも鑑定団」への出演でも知られる古文書学者、書跡史学者、愛知東邦大学客員教授の増田孝様(昭和42年卒)による「古文書解読の楽しみー本阿弥光悦の手紙ー」と題するご講演の後、総会を経て、懇親会となりました。

開始時刻を例年より30分早め、総会・懇親会の前に講演会を開催したことで、講演会も懇親の時間も十分にとることができ、充実した会となりました。

本年の東京葛城会の総会・懇親会も、上野精養軒において、10月17日(金)に開催する予定です。既に会場の予約も済ませておりますので、奮ってご参加いただきたくお願い申し上げます。なお、会費につきましては今年も1万2000円を予定しております。

コロナ明けの一昨年に続き昨年も幹事会による運営となりましたが、本来の幹事学年を中心とした運営ができるようになってまいりたいと考えております。

最後になりましたが、母校の教職員の皆さま、生徒及びご家族の皆さまのご健勝をお祈りしております。卒業生として、また東京葛城会として、できる限りの母校への支援をしていきたいと考えております。

☆養信会(市原支部)

会長 鈴木雅博

(昭和33年卒)

養信会は、市原市在住、また市原市と縁のある旧千葉中・千葉高卒業生を構成員としています。名称は、市原市の中央を流れる養老川と南部に位置する音信山(おとずれやま)の一字ずつを取り入れてあります。

当会総会は、令和六年六月八日(土)午後四時から五井グランドホテルにおいて開催されました。



当日は、高梨校長及び林同窓会長にお忙しい中ご出席頂き、御挨拶をいただきました。また、お二人から千葉高等学校の現状や千葉高等学校同窓会の活動等につきましても資料を基にお話ししていただきました。

参加会員が十四名と少なかつたものの七年ぶりに集い、お互いの近況を語り合うことができ、有意義なひとときとなりました。

養信会の開催は定期的には開催しておりませんが、このように新型コロナウイルス感染症等の影響により長く開催できなかったため、世話人も早くから準備を重ねてまいりました。

ところが、これまで養信会世話

人代表として長いこと総会開催の企画運営に携わってくれ、今回も準備の中心的役割を担って来てきた昭和35年卒の土岐紘史さんの急逝は、誠に残念でなりません。

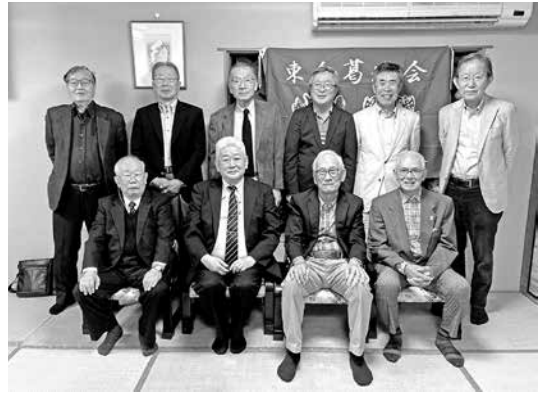
しかしながら、今回から新たに幹事として平成19年卒の浜中吾郎さんが加わってくれ、今後の会員増に期待しています。浜中さんのリードで校歌斉唱を行って、お開きとなりました。

今回の総会開催にあたり、同窓会事務局の力をお借りして、総会のご案内を送付することができました。ありがとうございます。若し「層」の掘り起こし及び参加者の拡充に、引き続き努力していきたいと考えています。

☆東金葛城会

会長 岸本雅邦 (昭和39年卒)

令和6年度の東金葛城会の総会は4月18日、東金の割烹志津本で行なわれ、池田同窓会副会長をお迎えし、和やかな雰囲気の中で開催致しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、しばらく開催が中止となっておりましたが久しぶりに同窓の皆様とお会いすることが出来ました。ご来賓より学校・同窓会の状況をうかがい、楽しい思い出に花を咲かすことが出来ました。



お当日はゴルフコンペを開催し親睦につとめました。

東金葛城会の会長の佐久間邁氏(昭和33年卒)から会長改選のお話があり、新会長に昭和39年卒の岸本雅邦、会計幹事に昭和45年卒の宇野英雄氏が推選され、決定致しました。

コロナ禍による開催のプランクもあり、参加者が減ってきており、今後会員増強に力をそそぎたいと思います。

☆成田葛城会

会長 松田徹之 (昭和39年卒)

コロナ感染症等により、令和元年度以降開催しておりませんでした成田葛城会を5年振りに令和6年12月1日に成田市内の「ひ

かたや第二支店」にて開催いたしました。

同窓会からは林孝二郎会長、高等学校からは高梨祐介校長にご臨席を賜りました。林同窓会長からは同窓会の近況報告などをお話いただき、高梨校長からは学校の状況及び学生の学業や部活動での活躍等についてお話しいただきました。同窓会・学校ともに色々とご努力をされていることに会員一同敬意を表したところであります。また、佐倉葛城会からは山田敏夫会長にご出席をいただき、同窓会名簿データベースを活用して会員、特に若い会員を増やしていきたい旨などお話を伺いました。

当会会員の参加は9名とこれまで一番少ない参加数ではありましたが、前述しましたようにご来賓の方々のお話を賜り、また、各会員の学生時代の思い出話や会員相互の近況報告などに花が咲き、楽しい一時を過ごすことができました。

今回の成田葛城会の開催に当たってもご家族からの訃報のお知らせや病気で参加できない旨の返信等があり、年々参加者が減り、新たな会員を増やすことも難しい中で、今後の当葛城会のあり方について議論していきたいと考えているところであります。

☆船橋葛城会

会長 應和恵子 (昭和49年卒)

第42回船橋葛城会は、令和6年5月26日に市川の山崎製パン企業年金基金会館、陽光の間に開催されました。昭和26年卒から平成12年卒までの幅広い年代の約50名が親睦を深めることができました。開会に先立ち、恒例のミニ講座では、「極地から地球が見える」と題し、朝日新聞社の南極・北極専門記者として活躍の昭和59年卒中山由美さんに、極地のお話とオーロラや極地で働く重機などのスライドをみせていただきました。会の後半には「お楽しみ抽選会」があり、何人かに景品が当たり大変盛り上がりしました。

秋の散策会は、10月20日に「城東の名所旧跡巡り」として、亀戸駅集合→亀戸駅前公園(玄武の像)→路地裏散策→亀戸香取神社→亀戸天神社→日清紡績創業地→亀戸銭座跡→昼食、という流れで、楽しく下町のそぞろ歩きをしました。春の散策会は3月16日に同窓生の実家である守屋酒造(山武市)の見学を予定しています。

今年第43回船橋葛城会を6月1日に市川の山崎製パン企業年金基金会館にて開催いたします。初めて出席なさる方も大歓迎いたします。

最後に、船橋葛城会では現役中高校生の活動を陰ながら応援しています。

☆佐倉葛城会

事務局長 荒井茂夫 (昭和45年卒)

新型コロナウイルスの感染対策の規制が緩和され日常生活もようやく落ち着きを取り戻し、佐倉葛城会もおかげさまで今回20回目を迎えることができました。前回同様佐倉市内の老舗蕎麦処「川瀬屋」にて令和6年12月10日に開催いたしました。

今回の支部だよりへの寄稿は私事で恐縮ですがいつも異なる内容になります。当初は総会の開催にあたり準備も万全で、佐倉葛城会の皆様にお会いすることを楽しみにしていました。ところが開催日の数日前に骨折で入院してしまい残念ながら参加することができませんでしたが、急遽当日の議事進行を脇谷氏(52年卒)にお願いいたしました。入院中総会の結果を伺ったところ大変盛況で無事終了したとの事で安堵致しました。この原稿は2月に執筆していますが、現在は車椅子生活も卒業し、松葉杖での本格的なリハビリに入っています。担当医には、歳をとってからの切開手術は回復に時間がかかる、と言われました。(笑) 下手すると、打ちどころが悪く寝たきりに



と思われませんが今後の活発な活動、発展を願ってやみません。

☆千友会

(千葉県庁千葉高同窓会)

会長 高梨 みちえ

(昭和58年卒)

千友会は、千葉県職員のうち、県立千葉高校卒業生による同窓会で、発足から57年を迎えました。

令和元年の台風・大雨による影響で総会を中止して以降、新型コロナウイルス感染症により活動停止を余儀なくされていましたが、今年度ようやく活動を再開いたしました。

なりますので、皆様くれぐれもご自愛ください。
事務局を仰せつかり6年経過しましたが、最近の佐倉葛城会総会の出欠状況を見ますと後期高齢者で元気な方もたくさんいらっしゃいます。年々高齢化が進み体調を崩され不参加の方が徐々に増えています。同窓会報での呼びかけ、同期の間での口コミによる呼びかけ、総会案内状の送付数の拡大等いろいろ試みていますが会員の増加になかなか繋がらないのが実情です。個人的には高校、大学、会社等の同窓会には、生きていく証として積極的に参加しており、特に佐倉葛城会の支部活動につきましては事務局としても会の継続を大切にしたいと思っています。各支部に於かれましては同じような状況

5年間の活動休止で、新規会員の把握もほぼ止まっています。昨年度、昨年5月に職員向け県庁内ホームページの「掲示板」に千友会の案内を掲載したところ、12名の方から入会希望のご連絡があり、学年幹事や役員体制の更新、同窓会名簿の作成など、総会開催の準備を進め、10月23日に「ホテルポートプラザらば」で6年ぶりとなる総会を開催できました。

た方、計21名の新規会員のうち、14名にご出席いただけるなど、過去最も「平均年齢の若い」総会となりました。約2時間の総会はあっという間で、最後は恒例の「校歌の合唱」で閉会となりました。
県庁においても、新型コロナウイルスの影響で歓送迎会や懇親会が4年程度開催されなかったためか、職員の「横・縦のつながり」がやや薄くなってしまったように感じています。千友会の再始動で少しでもそのつながりを強くすることができれば、と思っています。



☆卓球部OB・OG会

会長 長内 進

(昭和50年卒)

千葉高卓球部OB・OG会の2024年度総会を5月4日(土)に開催しました。当日出席していただいた22名の方々には改めてお礼を申し上げます。
主要な審議結果は以下のとおりですが、(5)に記載のとおり、今年度より会の名称を「千葉高卓球部OB・OG会」に変更することになりましたので、よろしくお願致します。

- (1) 2023年度の活動報告
- ・ 総会と千葉高杯卓球大会の開催、OB会の銀行口座の名義



OG会」に変更することを承認。
(6) その他
・ 22名全員が近況報告などのスピーチを実施。

☆サッカー部OB会

秋山 洸

(平成31年卒)

「初蹴り」

千葉高サッカー部は毎年1月2日に初蹴りを行っております。幹事は一年ごとに引き継いでおり、毎年中心となって計画をお手伝いいただいている松崎康弘さん(昭和47年卒)、昨年の幹事だった八木沼克生さん(平成30年卒)にご協力いただきながら、今年の初蹴りの幹事を務めさせていただきました。

年始のお忙しい中にもかかわらず、たくさんのOB・OGの方にお集まりいただき、今年は約60名での開催となりました。世代は違えど、ともに同じグラウンドで練習し、汗を流した経験を持つ仲間たちと一緒に、サッカーを通じて交流を深めることができました。私は普段、サッカーをプレーする機会をなかなか作れずにいましたが、みなさんが普段から精力的にサッカーをしているというお話を聞いた、衰え知らずの素晴らしきプレーを見たりして、とても良い刺激をもらいました。

- (2) 2023年度の会計報告
・ 前年度繰越金：356,189円、次年度繰越金：455,037円で、単独収支としては+98,848円の黒字であることを承認。
- (3) 2024年度の活動計画
・ 千葉高卓球部OB会のメンバーリストやサークルスクエアの継続的な管理、千葉高卓球部の支援などを継続実施していくことを承認。
- (4) 2024年度の役員体制
・ 2023年度の役員体制を継続することを承認。
- (5) 規約の改正
・ 会の名称を「千葉高卓球部OB会」から「千葉高卓球部OB・OG会」に変更することを承認。

また、このグラウンドで毎日練習していたころの成長した時の喜び、上手くいかなかったときの辛さを思い出し、現役生たちも同じようにこのグラウンドで仲間たちと練習に励み、素敵な日々を過ごしているのかなと思いを馳せ、懐かしく羨ましい気持ちになりました。

初蹴りの後は学校近くの貸しスペースにて懇親会を行いました。初蹴りに参加できなかったメンバーも合流し、卒業して数年しか経っていない後輩から昭和43年卒業の大先輩まで幅広い年代の方にお集まりいただきました。それぞれの世代の思い出話を語り合い、最後はみんなで校歌を歌って締めくくりました。

今年の初蹴りは多くの参加者がお集まりいただき、コート順番待ち時間が増えてしまったため、来年はさらに大きいグラウンドを借りての開催とするという案も出ております。より盛大な会にしていきたいと考えておりますので、今まで参加したことのないOB・OGの方にも、是非ともお気軽にご参加いただけるとう幸いです。

これからも多くの方に追加いただき、この会が同窓の交流をつなぐきっかけの場として末永く続いていくことを心より願っております。



☆バレーボール部 OB・OG会

会長 枝松宏明
(昭和46年卒)

バレー部OB・OG会は平成22年に有志の尽力により設立され、今年(令和7年)で15年目を迎えます。設立後は現役諸君へ毎年バレーボールの寄贈を継続しています。他にも支援策がないかと検討していますが、これといった案が少なく思案しています。

OB・OG会の体制は令和5年の総会にて大きく変化しました。会長、副会長、幹事長が代わり、幹事も2名が定年となりました。それまで昭和46年卒前後のメンバーが中心でしたが、現在は昭和61年卒前後のメンバーが中心となっています。一気に15年若返った嬉しさはありますが、新メンバーはまだ現役バリバリで仕事をしていることもあり、苦勞、工夫をして会の運営にあたってくれています。

今年は隔年に開く総会・懇親会の開催年、秋の開催に向け様々な検討中です。

昨年、あるキッカケで県船バレー部OB・OG会の会長が小生と同期の方と知り交流を始めました。抱えている案件は似たような内容でしたが、我々は会員への連絡はメールとHPを活用していることが先方の参考になり、一方、彼らが総会や懇親会以外に会員親睦の集まりを年に数回実施していることが小生の参考になっています。

OB・OG会の取り組みの一つである現役支援を充実するためには年会費収入の増加が必須であり、そのためには会員が総会、懇親会に多く出席してくれる取り組みが重要と考えています。

『水球(部活動)を通して
人間関係に感謝』
水球との出会いは千葉高水泳部からで当時の顧問は地理の岩瀬和博先生でした。メンバーも少なく、少し泳げたので1年生から試合に出場することになりました。高校時代は関東大会に出場し母校初の1勝をあげるこ

☆水泳部OB会

西 高志
(昭和54卒)

とができました。千葉県チームとして青森国体に参加して準優勝、監督は安房高校で全国優勝経験もある上野正裕先生でした。3年時はちょうど千葉高創立100周年にあたります。

大学では体育会の水泳部(水球)に入部、練習に明け暮れる大学生生活となりましたが、4年次にはインカレの決勝で国内連勝記録中の日体大と対戦するまでになりました。大学院には理工

学専攻で進学、この時期に千葉高水球部の臨時コーチとして後輩達と共に久しぶりの関東1勝を挙げることができました。この頃指導の面白さを感じます。エンジニアとして滋賀県の企業に就職しますが、この時期は京都で練習しながら高校生の指導を手伝いました。その後転職して高専の教員(工学)になり水泳部の顧問として35年勤務して昨年退職。その間に水球の全国インカレには4回出場。



退職時には高専水泳部の教え子たちが退職記念パーティーを開催してくれました。2次会には教え子の子供たちも参加してくれてなんだか孫が増えた気分

です。
競技や指導を通しての人間関係は私にとつてかけがえのないものになっています。すべての人に感謝したいし、次の世代にも伝えていきたい。千葉高水球の復活も期待しています。

☆ラグビー部OB会

会長 長 英連
(昭和52年卒)

2024年3月23日 コロナ感染で自粛していた「卒業生の壮行会」をホテルポルトプラザにて開催しました。自粛していた4年間の卒業生や歴代指導者の鈴木先生、為成先生も参加、初代のOBから現卒業生迄、部の歴史50年に亘るものでした。その場では現役(合同チーム)の関東大会で3位の好成績も披露され、大変盛り上がりました。

現役チームは新3年生がいな
い中で、4月の勧誘活動で9名
の新入部員を迎え2年生と1年
生で14名になりました。引き続
き、関東大会、全国大会の千葉
県大会には合同チームでの参加
になりましたが、春(関東大会)
の大会では、初戦の対合同チ
ーム同士対戦で28-21で勝利、続
く幕張総合戦は敗退。秋(全国大
会)の大会では初戦で千葉経済に
17-31で勝利は叶いませんでした。
しかし、各校の3年生が引
退後の新人戦では予選リーグを



勝ち抜き、1月12日のトーナメント戦初戦で秋に負けた千葉経済に38-7で快勝、ベスト8に進み東海大学浦安、順位決定戦の幕張総合には力及ばずで負けましたが、12月、1月の2ヶ月間で6試合を経験したことで、大きな財産を得たと考えます。
それに先立つ1月5日には、多くの若手OBが県千葉グラウンドに参集し、充実した練習にも寄与しています。
OB会の目的は現役の活動支



援を第一に掲げてきています。部員が少ない中では、若手OBがグラウンドで練習に参加すること、練習相手になることが何よりであり、長く継承しなければなりません。物的支援では練習・試合球に県千葉のネーム入を寄贈、老朽化したトレーニンング器

☆野球部OB会

事務局長 瀧岡 賢
(平成元年卒)

『考える野球』について考える
寒雨の休日、部を率いる黒川監督の協力を得て、現役選手全16名と共に「考える野球」について考えてみた。おそらく正解の無い議論に費やした時間は3時間余、一旦次のような整理に至った。

◆◆◆【考える野球とは】

①強いチームに正々堂々と勝つために必要なこと(目的や目標、理論や知識、戦略や戦術など)が丁寧に言語化され共有されている野球

②(練習中を含め)プレー単位でPDCAを回している野球「考える」を「丁寧に言語化」することと総括。そしてチームスポーツだからこそ、メンバー間の「共有」に重きを置くこととした。また、一球ごとにプレーが止まるという野球の特徴を捉え、「プレー単位」で生じる時間的な間隔を活か

すことにこだわった。

◆◆◆ さて現役選手たち。この議論をどう行動に繋げてくれるだろうか。グラウンドのいたる所で、プレーを振り返る言葉が飛び交い始めるようだと言われている。

後日、黒川監督から「選手たちが自発的に『ライバル校からの得点目標』を設定し、達成に向けた練習プランについて話し合っていた」と聞いた。

夏が楽しみになってきた。

【令和6年OB会の主な活動】

- 2月 総会および新年会
- 3月 東大野球部との合同練習
- 卒業生OB会入会式
- 5月 OB会ゴルフコンペ
- 7月 県OB野球大会参加
- 11月 都内在住OBの集い

【現役への支援】

- ・ピッチングマシン
 - ・野球道具(低反発バット等)
 - ・その他(トレーナー派遣等)
- ※OB会の支援額は合計220万円で県内トップクラス

☆弓道部OB会

会長 牧山 千莉
(平成28年卒)

令和5年から新OB会長に就任いたしました。約50年の長きにわたってOB会を運営して下さった、伊藤前会長をはじめ、前役員の方には改めて感謝を申し上げます。これからは、

新副会長の常川と共に、OB会の皆さまのご期待に応えるように頑張らせていただきます。

弓道部OB会は、コロナ禍で開催が延期されていた総会が令和5年から再び開催されるようになりました。近年の総会には、幹事の方の呼びかけもあり、若い世代のOB・OGを中心に多くの方が参加してくださり、幅広い世代の会員の親睦を深めることができております。

現在、千葉高弓道部は、県内大会や上位大会で非常に優秀な成績を残しております。これほどの活躍は、顧問の先生の優れたご指導と、現役員たちの正射必中という目標に向かって、努力を積み重ねてきた結果であると思えます。今後の活躍も楽しみにしております。

OB会としても、現在は現役生との交流があまりない状況ですが、弓道部の支えとなれるように新しい取り組みも考えていきたいと思えます。

☆山岳部OB会

会長 中谷和博

(昭和44年卒)

コロナ禍が叫ばれていた期間は開店休業状態でしたが、少しずつ活動を再開しています。主な3本柱は従来と変わりなく、OB会報の発行・OB会総会・OB会山行です。



2024.11.16 千葉高山岳部 OB会総会 (現役生8名も参加)

OB会会報(OB・OGの近況を記したもの)の発行(年1回)は会員の増加に伴い、手間暇や費用の増加を考慮しメール配信に軸足を移しつつあります。OB会総会は例年11月の第2土曜日を基本としています。今年度は11月16日に開催されました。84歳から15歳まで総勢35名(現役生8名を含む)で楽しいひと時を過ごしました。

現役高校生部員の増加に伴いテントが不足しているとのことのでテント1張り寄贈しました。

また、歩荷のトレーニンングに使用するためOB・OGに呼びかけザックを10個寄付しました。

長らく役員を引き受けて頂いた3名の方が退任されました。山崎彰氏(昭和40年卒 監事)、林和也氏(昭和41年卒 監事)、尾形一法氏(昭和41年卒 副会長)です。なお林和也氏は令和7年2月逝去なされました。

役員会のメンバーも若返り、若手の意見を取り入れて活動したいと考えています。

☆葛城柔道会 (柔道部OB会)

会長 中臺公明

(昭和48年卒)

本会もコロナ禍で活動休止状態が続いていましたが、七年振りの臨時総会を令和五年十一月十八日に開催する事が出来ました。心機一転活動再開と集まった会員により役員改選と、今後の活動について意見交換を行いました。

わたくし中臺が新会長、副会長には平成十五年卒の竹下毅さんが選任されました。又、会の活性化を図るため連絡体制の迅速化(デジタル化)に取組む必要性が求められました。新役員は寒稽古・暑中稽古への参加はもとより、会員相互の交流を深め



る活動を通じて会の継続、発展に取り組んで参ります。

前会長の吉成隆杜さんは平成二七年から八年間の長きにわたって会を牽引し、寒・暑中稽古での現役員への技の指導、柔道場の名札の更新、嘉納治五郎書『精力善用自他共栄』の額の手配などに尽力して頂きました。現役柔道家としても日本マスターズ柔道大会で十回の優勝、一昨年開催されたアブダビ世界ベテランズ柔道大会で金メダルに輝くなど活躍されています。今後とも後進の指導を宜しくお願い致します。

柔道部では昭和の時代から寒・暑中稽古には多くの先輩方が参加し、現役員に稽古をつけております。今回役員に若返りもあり、今一度初心に帰り本会活動を推進して参りますので、会員の皆様の一層のお力添えをお願い申し上げます。

学年短信

●昭和22年卒

斎藤 喜久三

暫くぶりですが会合の為、予定より一時間早めに行き、50米の巨大プール跡から袖ヶ浦の夕日のきらきらと波間を見たかったのに、あの素晴らしい眺めは何処に行ってしまったのであろうか。無理も無い。目を閉じて暫く経って気がつけば、卒業してから77年も過ぎて何と95才に。我が22年卒はもう100才迄あと5年になるのでこれは大変。行事はもう出来ないの語り部として述べたい。

入学以来、考えてみても授業よりも作業の方が多かったのであるが、入学以来の出来事を思うにすべて戦争のためである。校庭で喜々として運動に励んで居る後輩たちは幸せそうである。それではこれから語り部と移ろう。

入学以来卒業迄を我々は文集を制作してまとめ、220頁にもな

り、主な事を抜粋した。内容は空襲の回数、出征兵士の人手不足の援農作業、防空訓練、行軍徒歩での体力作り、大体往復30斤位で坂尾のさくらの名処行きであった。軍需学校(飛行場)勤労働員、三年生より四年生の戦争終了迄、激務で正月休みもなかった。8時より5時迄工場は船橋市の日本建鉄(株)で零戦戦闘機、B29に対抗する雷電戦闘機等なれない飯金作業で女子学生も動員されて千葉方面の生徒は朝早くから大変だったろう。下志津(四街道)飛行場は一週間続けて土砂運びで、これが一番辛かったかな? 楽しみな援農作業は木更津港へ到着のはしけより硫酸肥料20疋袋を下す作業。3時の休憩には貴重な白米の白握りが支給された大歓迎であった。千葉市が空襲を受けた頃は下志津飛行場の土木作業で、集合するには行きは千葉駅集合下志津飛行場迄行軍をする。帰路は疲れているので汽車で千葉駅迄行き解散する。戦局が不利になったので飛行場建設作業は一週間連続した。6月には戦時特別訓練白兵戦があり、いよいよ我々も心の中で決意をしたものだった。

8月15日戦争は終結したものの東京をはじめ日本中どこもかしこも焼跡だらけ。

千葉中生も今度は在校生が校舎内や焼跡復旧に忙しかった。

あの戦乱後、我が校は校訓の和

衷協同質実剛健と皆の絆のお陰で創立百周年を迎えられ、平和になつたら毎年同期会を行う約束して令和10年には創立150周年を迎える。平和がいかに有難い事かつくづく感謝するばかりである。末尾に主なる事項を参考までに記す。感謝のみ。

縣立千葉中第61・62期生の記録より抜粋

昭和17年
4月2日(木)入学式
4月18日(土)警戒警報発令(8:30)空襲警報発令(12:10)同 解除(15:10)
6月12日(金)1年小湊方面旅行
7月29日(水)校内水泳大会
8月25日(火)1年農場作業

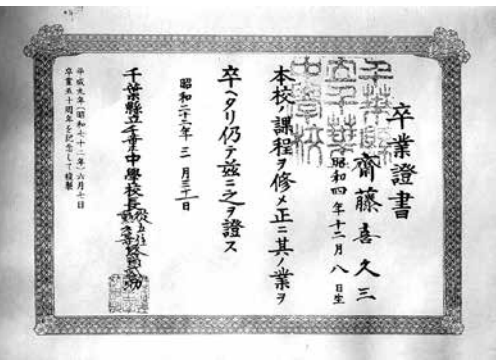
昭和18年
◎第二学年
4月1日(木)始業式 糸賀先生離任式
4月10日(土)利根川先生離任式、全校坂尾に行軍(行軍状態特別の悪評を聞かず)
4月21日(水)護国神社奉祝祭につき1・2年参拝(3・4・5は前日)
6月11日(金)全校行事(2年松戸高等園芸工兵隊)
11月1日(月)創立記念日(65回)
11月30日(火)2年甘藷運搬作業、下肥吸出作業(5限)
12月8日(水)大詔奉読式(二周年)神社参拝

昭和19年
1月24日(月)防空訓練(2年各部配当)
2月3日(木)対寒行軍(午後)6km徒歩
◎第三学年
4月1日(土)始業式 級長任命
4月12日(水)全校行軍(坂尾)

6月10日(土)木更津肥料作業(3の4・5)
6月12日(月)補給廠作業(3の4)
6月20日(火)軍需廠作業(3の5)
6月26日(月)軍需廠作業(3の3)
6月27日(火)軍需廠作業(3の1)
6月28日(水)軍需廠作業(3の2)
7月15日(土)5年通年動員、壮行会
7月15日(土)防空壕掘作業
7月31日(月)下志津飛行学校作業(3年全員)

8月1日(火)4年通年動員、壮行式
8月25日(金)3年日本建鉄出動壮行式
10月5日(水)物象特別授業(建鉄にて)
11月24日(金)敵機空襲のため午後授業行わず(在校生)

昭和20年
2月16日(金)敵艦載機無数来襲のため授業なし(在)
3月10日(土)二時限終了後警戒警報発令解散帰宅せしむ(在)(東京大空襲の記述なし、日曜にかけてのせいか)
3月27日(火)午後2時半より学校工場開き



◎第四学年
6月28日◎戦時特別訓練(白兵戦)日時不詳 職員会議
◎映画「土、日、祭日は之を許す」
昭和21年
3月1日 職員会議
◎昭和二十一年度教科書 第一回暫定教科書三月中に配布。
◎卒業式四卒(61期)二十八・九日頃、修業式は三十日
◎朝礼 来週より中止

昭和22年
3月31日◎卒業式五卒(62期)
(昭和21年4月以降は残念ながら資料なし、昭和20年〜21年3月までの分も日を追っての記述は少なく、メモ程度の記述になってしまっている。戦況の悪化と戦後の混乱の為か)

●**昭和25年卒**

矢島 肇

人生いつの間にか九十三年が過ぎ、我ながら驚いている。生命には限りがあるが人それぞれで全く判らない。我々が旧制千葉中に入學した時は第二次大戦の真っただ中であつたので同期はいづれ戦地へ赴き兵士となると思っていた。唯、敗れると思つてはいなかった。結果は負け、全員無傷で終戦を迎えた。しかし、昭和二十年七月七日、七夕の夜、千葉はアメリカB29爆撃機に襲われた。幸い千葉高は残つたが千葉市内は焼夷弾で焼かれた。翌朝早く親友が訪れ、不発の焼

夷弾を取りに行こうと誘いに来た。焼夷弾はとても綺麗なりボンがついていた。彼は何でも詳しく危険などの話は全くなく、唯急いでいた。私は家族と朝食が始まる時であつた。後から追いかけるといつたので、彼は走って行った。その時父は絶対行くなと語気を強めていった。そして彼を止めたかつたと悔んでいた。しばらくして友人が我が家へ飛び込んで来た。顔は青ざめ少し異物をつけていた。そして元來吃音の彼は激しく震えながら親友の事故を話し始めた。大怪我だ、右手は飛ばされ眼球は一つ失つたとの事で、本人は戸板に乗せられ千葉大学病院へ向かつたとの事。私も走って連絡をくれた彼と病院へ。病院前は病人そして付添人でごつたがえしていた。本人は見つからなかつたが、病室にいるらしい。手術中の様であつた。

あれから八十年過ぎた。不自由な身体で精一杯頑張つて生き抜いた彼も十年前亡くなつた。私の身替りの人、いつ迄も忘れられない学友である。

●**昭和29年卒 福の会**

中村 浩紹

令和6年は、「寅さんブーム」が席巻した。と言つても「柴又の寅さん」ではない。

わが国初の女性弁護士三淵嘉子(旧姓武藤)さんをモデルとしたNHK朝の連続テレビ小説「虎に翼」の寅子さんが話題となり、その逞しい知見と行動力が朝起きて感銘と気力を与えてくれた。

昭和初期、女性が司法の分野での活躍を目指そうとしても昭和8年に改正される前の弁護士法では、「男子たること」が弁護士資格の要件とされていたため女性にはその門戸が閉ざされていた。その改正にあたって「近來女子教育の進歩並に一般社会の趨勢に鑑み特に女子に対して弁護士を閉ざすの必要なきのみならず女子に関する特殊事件に付ては却つて女子の弁護士を必要とする場合あるを認識せらるる故に此の際女子に対しても弁護士事務を執り得る門戸を開放したる次第なり」と改正理由が閣議書に記録されている。

そして昭和13年、三淵さん・中田正子さん・久米愛さんの3名が高等文官司法科試験に合格、「法服を彩る紅三点」と称され昭和15年弁護士登録、女性法曹の先駆者となった。三淵さんは、昭和24年に誕生した家庭裁判所の設立準備にも尽力され、その後、昭和27年初の女性判事、昭和47年初の女性裁判所所長となり、その間、東京地方裁判所在勤中の昭和38年12月7日言い渡された原爆裁判を担当され判決文起草に参画された。テレビで

の寅子そして三淵さんの人生は、「女性であるという自覚より人間であるとの自覚」と「人間として男性も女性も同じだという信念」が貫かれている逞しさが心に残る。

わが葛城健児にも「令和の寅子」が健在である。

令和6年7月、わが国初の女性検事総長(第33代)として畝本直美さん(昭和56年卒・旧姓木村)が任命され就任した。令和3年に広島高等検察庁検事正、令和5年に東京高等検察庁検事正という要職にいずれも初の女性として任命されている。

検察のトップとしての記者会見で「検察の使命は厳正公平・普遍不党で事案の真相をすること」、「男性でも女性でも、期待される役割は同じだ」と喝破された「令和の寅子さん」。正義のため大任を慈なく遂行されるよう心より祈っている。ご尊父も昭和28年卒の葛城健児である。

畝本さんとは、私が人権擁護委員として全国人権擁護委員連合会会長在任の際、検事として法務省人権擁護局総務課長として赴任されてきた。お付き合いの中で、出身が千葉だと漏らされたので、「二高?、二高?」と問うたところ千葉高だとのこと、さらに司法修習地が仙台であり、私の義弟の法律事務所が弁護士業務修習指導を受けたとのこと、まさに驚きと奇遇の出会いでも

あった。そのほか人権擁護活動のお役目に携わるなかでの出会い、支援を受けた葛城健児には、亡更生保護法人日新協合理事長上原章君(昭和37年卒)、元千葉県人権擁護委員連合会会長熊野明夫君(昭和43年卒)、元江東区役所人権推進課長寒河江徹君(昭和56年卒)らとの巡り逢いがあった。

福の会の仲間は、本年満90歳を迎える。数多の青春の思いを胸に秘め旅立った友は多く、また、自身や伴侶のおかれている環境では気楽に出掛けることが叶わぬ現実にも直面している世代である。卒寿のつどい、思案中である。

●昭和30年卒(三十年会)

会長 大塚正明

24年の総会・懇親会は、普通の形でなく「祝米寿30年会」として、11月2日京成ホテルに26人が参加して開いた。

70年前341人いた仲間は、今、案内状を出しているのが98人。うち26人だから決して多くはないが、「よくぞこの会に参加できた」という感慨は一緒だった。

会長挨拶で私は、「30年会は90歳まで続けると言ってきたが、あと2年。こうなったら100まで」と思わず口から出た。実際は、90歳を過ぎたらたまり場

になっている早川英明君(事務局長)が店は続けたと言っているから、お世話になりたいと思う。いつもの会は、原則クラス別に座り、思い出、近況を話し合ってきたが、今回は司会の早川君が5人を指名して米寿の弁を話してもらった。

30年会の女性は30数人。この日参加の矢崎朝子さん。「あつという間に米寿になりました」

これが実感に違いない。鳥飼和子さんは、「医師と結婚して楽しい時、教師として苦しい時を経て今がある」とそのままの来し方。男性では根本好教君。「警察官



だった父の影響を受け警察官となり、皇宮警察本部長を退職後、ANAにも呼ばれ、いつの間にか米寿に」。警察官のトップコースの人。

劇的だったのは金子進一君。「千葉銀のNY支店長になった時、支店の事務所候補に入っていた高層ビルが9・11テロで爆破された。もし入っていたら命は吹き飛んでいた。現地でも客とゴルフを毎週やった。これがその後の2回のエージシュートにつながった」。

久しぶり出席の山岸和夫君は「気合を入れて出てきました」。25年は昭和100年。うち私たちは88年。焼け跡世代は昭和の高度成長期に懸命に働いて今がある。道は違えど歩んだ道のり、達成感は皆一緒。

「100分の88を生きてきた」

●昭和36年卒

高師弘子

昭和36年卒の私共は還暦の年に『千葉高創立125周年総会』のお当番役をおおせつかった学年です。幕張のプリンスホテルで800余名の出席者を得ての盛大な会となりました。準備に追われ冗談に「定期券が必要なくらい」と声があがったほどでしたが、結果大変絆の強い学年とな



り今日に至って居ります。
 コロナ禍でキャンセル続きの傘寿の会をやっと一昨年の5月に70名を越す出席者で開催でき、皆様との約束を果たせました。当日、会場でひ孫誕生の知らせを受けたAさん、明石より欠席にもかかわらず赤いバラの折り紙を各人に届けてくれたKさん。新潟からかけつけてくれたO氏……。5分間スピーチでの近況報告で和気藹々の賑わい、まさに仲の良い同級生の集いとなりました。長年我が学年の代表を務めてくれた田那村氏、静かにバックアップしてくれた石井氏達、皆あの世ですが残された私達は仲良く頑張っています。今回の同窓会は来年84歳(今年)を予定。創立150周年のお



祝いも元気に出席と約束し、散会しました。(写真) 今年2月の同窓会総会出席の7名。昭和58年卒道添氏撮影

●昭和37年卒(37会)
 常任幹事 櫻井武之

【37会傘寿記念総会懇親会】
 喜寿記念の総会・懇親会の予定が、新型コロナの影響で延期になり、やっと昨年5月25日に、103名の大勢の参加者を得て「傘寿記念」として、オークラホテル千葉にて実施することができました。

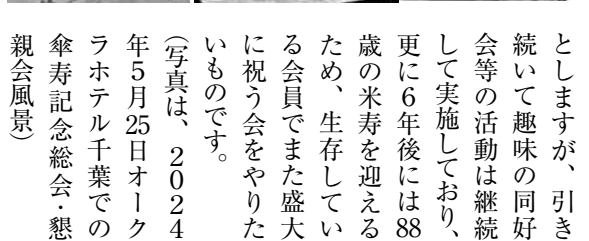
中村宏会長の挨拶後、物故者約90名(卒業者の22%)に黙祷し、生田流第師範酒井雅邦君の「琴の調べ」演奏をかわぎりに、松井健



一君の猿の縫いぐるみで腹話術漫談、千葉武彦君と大村秀夫君のウクレレおやしバンド演奏、幸治君の詩吟、藤田君のハモニカ演奏やカラオケ等々の余興と3時間があつという間に過ぎ、最後に応援団の永峯文秀君の音頭で参加者全員で千葉高校歌を斉唱しエールで中締めとしました。参加者は、何十年振りかに多くの方々と再会し旧交を温めたり、37会の誇る今なお元気に活躍している芸達者の面々に元氣と感動を貰ったり、また傘寿を過ぎてまだまだ現役で頑張っている会員達と懇談したりして、これからの人生を考え直す一つの機会ともなったものと思います。

これで、大きな37会としての行事は一応終わりとしますが、引き続き趣味の同好会等の活動は継続して実施しており、更に6年後には88歳の米寿を迎えるため、生存している会員でまた盛大に祝う会をやりたいものです。

(写真は、2024年5月25日オークラホテル千葉での傘寿記念総会・懇親会風景)



●昭和39年卒(39葛城会)
 幹事 畠山一雄

2024年も前年同様に各種行事を継続し、同期の懇親を深めました。

3月には昭和の森公園(土気町)ハイクに約20名が広い園内を散策して自然を楽しんだ後は居酒屋にて飲食歓談しました。4月には小グループにて御岳ロックガーデンから澤井駅への御岳溪谷遊歩道を散策し、新緑と満開の花見を楽しみました。

6月には定例の春ゴルフコンペを本千葉CCCにて4組で実施し、運動(笑)と懇親を楽しみました。7月は小グループにて谷川岳天神平を散策、好天下で谷川岳両耳や山並風景を満喫しました。また一の倉沢出合では切り立つ岩壁の絶景に感嘆しました。10月は秋ゴルフコンペを開催しました。12月の葛城ハイクは、10数名で皇居東御苑にて二の丸庭園等を散策、三の丸尚蔵館では貴重な展示品の見学を行いました。帰路のレストランで懇親しました。

最後に、一足先に傘寿を迎えた同期の石井基善さんが、高校以来の作画を続けて展示会出品や画集の出版を重ね、10月に6冊目の傘寿記念編画集を出しました。名作風景画等のすばらし

さや時代の変遷・社会記録性を感じて自分もそれらを残したいとの思いで活動してきたものです。思いを貫き、成し遂げたことに敬意を表します。(石井基画集・アイブックス社、I. スード編、II. 花静物編、III. ヨーロッパ風景&故郷 旧畜産試験場風景編、IV. 原風景編、V. スケッチ&コンテンポラリー編、VI. 傘寿・記念編)

(写真) 2024/12皇居東御苑散策、石井基善さん画集

●昭和41年卒
 石田幸臣

二〇〇五年七月初め、会社帰





りに立ち寄った新橋駅前の本屋で一冊の鉄道雑誌に目が留まる。思い出深い列車の特集記事が載っていたのだ。

当時私はバイクに夢中で寸暇を惜しんで日本中をツーリングで駆け回っていた。宗谷岬から本土最南端の佐多岬まで名だたる岬はすべて行った。

二度救急車の世話になったが悪運強く二度ともカスリ傷で済んだ。妻は「バイクに乗るのはやめて欲しい。歳なんだから」との御意見。二度あることは、とも

言うし降りることにした。

七月下旬、房総一周の旅に出た。鉄道全路線乗り尽くしの旅のスタートである。土日祝日は勿論、五月の連休、夏季休暇もひたすら列車に乗った。

六年が経ち、二〇一一年三月十二日九州新幹線全通の日を迎える。が、その前日、あの東日本大震災。高揚していた気持ちは消え失せた。計画を変更し四月二十八日、熊本〜博多を新幹線に乗車、博多南で全路線完乗を達成する。

鉄道の旅が終わってしまい、これから何をしようか悩んだ。だが、記録を整理していて私は過ちに気づく。モノレールやケーブルカーも鉄道なのを見逃していたのだ。

それらにも乗らなければ完乗にならないのなら、いっそのこと全駅下車しようかと決心した。旅の楽しさは、車窓の景色を眺め、旅先の地酒を飲み郷土料理を味わうことにある。地元の人と語り、季節の風を感じながら田舎道を歩くのも又楽しい。

あれから十四年が過ぎ、下車した駅は九千六百。残っているのはJR十八駅、沖繩のゆいレール十九駅だけとなった。全国二百三十二の街にも宿泊した。途中でのエピソードは色々あるが紙面の都合で割愛する。冒頭

で触れた思い出の列車は新婚旅行で上野から旅立った寝台特急「あけぼの」である。五十三年前のことになる。

同期会は今年が第五十回だろうか。去年の参加者は五十一人だった。「次回は全駅下車完乗を報告したい」と挨拶させてもらった。頑張らないといけない。

(写真) 昨年の同期会。マイクの主が筆者。真行寺豊君撮影

●昭和43年卒 伊藤三平

還暦後は2年ごとに同期会を開催してきたが、2020年予定がコロナ禍で延びて、去年、6年ぶりに開催。卒業後56年。世間では後期高齢者と呼ぶ年齢になる。

ホテル予約時に「いつもは100人くらいですが、6年ぶりで75歳だから、出席人数が読めない。取りあえず70人で」と依頼。ホテル費用が一人8500円だが、会費は8000円として500円×70人分＝3.5万円は余剰金で貯う心積もり。クラス幹事諸氏のメールアドレス再確認等のご努力で、申し込み締め切り時点で91人の出席。慌ててホテルに連絡。結果として101人の出席と従前と大差無い出席者数。必要な余剰金は

5万円越えとなり、焦る。近況報告は124名分で、出席者には冊子で配布、欠席者はネット閲覧。事務局は今回で同期会は終了の腹つもりが、幹事諸氏から「こんなに集まるならば2年後の喜寿は飛ばして5年後の傘寿80歳にやろう」との声。大丈夫だろうか。

10回の皆勤者が16名。9回出席が14名で、このような方に支えられている一方で、卒業後、初の参加者が2名。この結果、1度でも同期会に顔を出された方は238名(全体の53%)となる。福岡、宝塚、奈良、越前武生、信越境の栄村、南信州飯島町、富士、裾野の遠距離からの参加や、足が悪いのに携帯椅子持参の参加者には深く感謝。ガンを患った方も目に付き、不治の病で無いことを実感。トイレで中座すると便器に向かった3人から高齢男性共通の悩みで盛り上がる。

●昭和44年卒 森 茂

『師という者』

武道の入門心得の一つに「三年かけて師を探せ」という伝えがあります。ですが、どうやって探せば良いのでしょうか? また、探さねばならない師と、探さず

ともそこに居る師とはどう違うのでしょうか? 長かった学校時代の「恩師」を思い起こすと、自分で「探した師」ではないにも関わらず、私にとっては確かな手応えと共に記憶に残る何人かの「恩師」がいます。両パターンに共通するのは、そこに「動いている私」がいたことなのかも知れません。師は教えては呉れませんが、その教えの道を歩んで行くのは師から教わり学び取った者自身です。想えば、師もまた教えながら自らも学び歩む者であるのでしょうか。

師とは、探している時も出会った時も、実は自分自身の中に居て、自分の目標に向かって歩み続ける意志と実行力、忍耐力があるかどうかを問うている者のことなのかも知れません。(因みに私は高校弓道部の三期生ですが、師の存在は武道に限ったことではありません。)

※次回(第八回)同期会は、二〇二七年十月に開催予定で、「喜寿記念」ということになりました。皆さん元気でお会いできることを祈っています!

●昭和45年卒 徳村万貫夫

2024年の3月、第十一回目の同期会を市川で開催しました。6年ぶりの開催です。前年



「秋から「同期会をやるよ」という声があがり始め、幹事でグループラインを作って、SNSで連絡を取り合うようにしました。以前のような電話やメールでの連絡とは違い、素早く情報共有できるので大変効率的に準備ができました。古希を過ぎていても、これぐらいのことはできますからね。」

「今回が最後の同期会開催ですよ」というアナウンスが効いたのか、これまでで最高の参加者となりました(97名)。二次会、三次会まで大変に盛り上がり、旧交を温めました。たまたまっていた剰余金を全部使ってしまったというところで、割安な会費となり、皆さんに還元できたかなと思います。

全員に呼び掛けている同期会開催はこれを最後として、今後は有志が集まろう、ということになりました。

(写真:最後に挨拶する筆者)

● 昭和47年卒

津島 明美

「サッカー部」

47年卒には「サッカー部」があります。

同期の藤原真由美さんが47卒メーリングリストを立ち上げ、同じく同期の松崎康弘さんがJリーグ現役審判だったご縁もあり、25年以上活動しています。

初めは人数も多く「部」というようなこともなく、Jリーグのいろいろなチームを観戦していましたが、現在の部員は12名ほど。

サッカー部員にはいろいろな人がいます。

ジェフユナイテッド市原・千葉ファン、柏レイソルファン(私です)、FC東京ファン、アルビレックス新潟ファン等々。

サッカー部の主な活動は、全国高校サッカー選手権の決勝戦(1月)、千葉県の2チーム、ジェフ市原・千葉の1試合、柏レイソルの1試合、合計3試合+aの観戦です。

そのほかにも毎月1回 Zoom による定例会を実践中。近況報告

等でも盛り上がっています。

第103回全国高校サッカー選手権では、千葉県代表流経大柏が決勝に進出して大喜び。惜しくもPK戦で涙をのみました。観戦の後、大変良い試合でした。観戦の後は居酒屋さんでサッカー談義だけでなく、楽しい時間を過ごしました。

千葉高を卒業して53年後でもこんなに関係を築いているのはとても幸せです。サッカー観戦と皆さんとの交流は最後の生きがいになっています。

80歳になっても90歳になってもスタジアムに足を運んでサッカー観戦を続けたいです。

部員も常時募集中! サッカー観戦に少しでも興味がある方はお声をかけてくださいね。

● 昭和49年卒

大岩 由紀

(旧姓 篠崎)

「秘湯の会」よいつまでも

卒業から半世紀が過ぎ、私たちの学年も古希を迎える今年。人生百年時代とは言え、「俺たちに明日はない」とひしひしと感じています。

十数年前、同級生数人で熱海に行く機会がありました。車中では高校時代の思い出話に花が咲き、早くも宴会状態に。その

後の夕食時、更に盛り上がったことは言うべくもありません。おなかを抱えて、涙が出るほど笑いました。これに味をしめて「秘湯の会」が誕生、その後毎年の恒例となりました。

2020年は上高地の坂巻温泉を予定していましたが、コロナ禍の緊急事態宣言を受けて中止に。2年半休眠状態が続きました。その間、メンバーの一人が亡くなるという悲しいことがありました。遠くから冥福を祈るだけしかできなかったのは残念ではありません。

皆が元気なうちに再開しようと、幹事役のU君が声をかけてくれたのが2022年の初夏。その秋に坂巻温泉で秘湯の会再開。日本秘湯を守る会の会員でもある彼は、毎回温泉の選定か



らスケジュール調整まで細々と骨を折ってくれています。今年も5月末に奥鬼怒の八方の湯を予約したと、先日連絡がありました。奥鬼怒の新緑はさぞ美しいことでしょう。

毎回の旅行は、高校時代にタイムスリップできる貴重な時間。全員が元気で長く続けられるようお願いばかりです。ちなみに、女子4人は3Aのクラスメイト。担任だった田所先生のお勧めで大学も同窓です。

● 昭和54年卒

中島 真理子

2025年1月3日(金)、京成ホテルミラマール一六階にて恒例の新年同期会が四二名の参加を得て、加藤雅哉さん司会のもと盛大に開催され、美味しい洋食フルコースをいただきながら、旧友との再会を喜び合いました。池田知行さんのフルト演奏という素敵な余興もあり、和やかな雰囲気の中、約二時間半の楽しい時間を過ごしました。

二次会はベリエールに場所を移し、さらに多くの仲間が集まり、賑やかな宴となりました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、名残惜しさを感じつつ、次回のを再会を約束しました。

今回は八二名の方から出欠のご連絡を頂きましたが、次回は



更に多くの皆さまと、元気な姿で再会できることを楽しみにしています！

出席者(3年時クラス別、旧姓表示、②は二次会のみ)

【A組】加藤則子、加藤雅哉、下村倫、平松茂樹、森塚伸、渡辺尚、②久保田功【B組】伊藤喜美子、大高剛、加藤きよみ、鹿島義之、喜田悦明、野口かほる、能勢智【C組】椎原伸博、②熊埜御堂章【D組】上原大路、小川洋二、木村光彦、鈴木照充、竹中哲郎【E組】杉本直樹、曾根哲也【F組】市川心一、植松正樹、小河原賢一、小田健司、小早川雄

司、佐藤恵美、澤本和徳、白岩等、林田充【G組】池田知行、大岩和弘、太田やよい、岡部政信、杉山昭彦、鈴木文夫、立川恵津子、西高志【当日欠】【H組】市川直樹、関崎裕司、中島真理子、松崎志津子

●昭和58年卒

道添 宏樹

去る2月1日(土)、同窓会総会・懇親会が京成ホテルミラマーレにて開催され、私たち昭和58年卒業生が幹事を務めさせて頂きました。御蔭様で300名を優に超えるご参加を得、何とか大過なく会を終えることが出来ました。

2017年の東京葛城会総会の幹事学年を務めた際のメンバーを中心に16名で「世話人会」を発足し、1年がかりで7度に渡る準備会合を経て当日に至りましたが、その過程で多大なるご支援を賜りました同窓会事務局並びに諸先輩方に改めまして心より厚く御礼申し上げます。

又、当日は総会・懇親会の後、二次会を兼ねた昭和58年卒同期会を同ホテル最上階にて開催いたしました。還暦イヤーという事もあり、一次会に間に合わなかった者も含め、約100名の同級生が集い、旧交を温めました。

会場では第3学年時のクラスだけでなく、第1・2学年時のクラスメートとの交流の機会も多く、たくさんの昔話に花を咲かせてあつという間の2時間となりました。

会の後半には、全員が壇上に上がりそれぞれが現況を報告。定年を迎えて新たな道に進む者、まだまだ多忙な日々を過ごす者等、これまでの歩みやこれからの人生設計の披露に大いに盛り上がりました。

会の結びにこの度の集いで連絡先がある程度整備できたため、今後も定期的に学年同窓会を開催する事を決定し、まずは1年後の再会を約して長く楽しい一日を終えました。

●昭和59年卒

折原 亮

同窓生の皆様、こんにちは。来年2月7日(土)の同窓会総会・懇親会の幹事学年となります59年卒の折原と申します。

今年の総会・懇親会は、幹事学年の昭和58年卒の先輩皆様のご尽力と、同窓会長・役員・事務局皆様のサポート、校長先生や恩師の先生方の心あたたまるお言葉を賜り、多くの同窓生が再会し、交流することができ、心から感謝申し上げます。

総会・懇親会に59年卒同期は



県内外から15人が参加し、鶴田先生や越川先生を囲み、懐かしい話や同期の話で、あつという間に楽しい時は過ぎました。

同期の二次会には16人(うち二次会から5人)が参加して、交流

を深めました。

59年卒では、同窓会(全体・クラス・地域等)の連絡用に、メールアドレス等の登録をお願いしています。未登録の方は、千葉高同窓会HPの住所登録フォームからか、59年卒名簿委員の折原(sds9-kanji@chibako.net)あてに、3年の組とお名前をメール連絡お願いします。

同期四百人中、現在、約半数の登録で、秋までに各クラスの三分の二以上の同期のメールアドレスをいただける幸いです。

登録いただいた連絡先は、非公開ですが、各同窓会行事等の連絡についてご相談承ります。

今後、同期お互いの連絡をとりあいながら、来年の同窓会総会・懇親会の準備も進めてまいります。

同窓生の皆様のご健康・ご多幸を祈念しますとともに、来年の総会・懇親会でお会いできることを楽しみにしています。

●平成元年卒

古内 和明

2023(令和5)年11月に8年ぶりに開催した学年同窓会(162名出席。同窓会報第53号参照)以降、幹事団の呼びかけにより、3年次のみならず1年次及び2年次のクラス、部活動、趣味をテーマとした「FINGグループ



ブが数多く創設され、その後のネットワーキングに役立てています。とりわけゴルフの「プロゴルファーにおいては、学年同窓会の壇上から直接参加の呼びかけを行ったこともあり、計39名のメンバーを迎える盛況に至っています。2024(令和6)年においては3月に22名、9月に23名の参加者にて千葉県内のゴルフ場にてコンペを開催し、アフターの表彰式・飲み会も大いに盛り上がりました。派生してメンバー間でラウンドの誘いやミニコンペの企画も頻繁に行われており、人生百年時代のメンバー各自の「ゴルフ」に新たな彩りを添えています。

います。

ゴルフを嗜むシニア世代としては、コロナ禍明けの最近のゴルフ場の活況はたいへん喜ばしいものであり、特にゴルフ場予約サイトの進化やゴルフウェア・グッズの多様化は、若年層のゴルフ人口の増加に大きく寄与しています。私が若かりし頃に職場の先輩OBは「君たちが土日におおきなゴルフできるよう、引退した俺達が平日にラウンドしてやっているんだ」と話していました。自分達もだんだんとそのような年代に近づいており、平日のラウンド増加(?)も含め同窓生間のネットワークのさらなる拡大に努めていきたいと考えています。

●平成12年卒

東 寿浩

「卒業25年」

2025年は卒業からついに25年を迎える年。そのせいか2025年2月の同窓会総会には10名程度の参加者も集まり、次第に同窓会を開こうという機運が高まってきています。筆者のところにも、そろそろ同期会をやってもよいのではないかと、う問い合わせを何度もいただくようになり、何とか今年中に同期会を開催できればと、周囲を巻き込みながら動き始めたところ

るです。

まだ実績をご報告できる状況ではないのですが、まずは参加できる人だけでもいいから、千葉近辺で集まってみよう、という話になっていきます。一方で千葉を離れているメンバーで東京から集まるといふ人たちに声をかけており、東京組と千葉組を軸に、複数のコミュニティを繋げていくながら同期会実現に向けて動いていく所存です。

余談ですが、筆者は編集者を生業としており、昨年は朝ドラ「虎に翼」にあわせて『三淵嘉子先駆者であり続けた女性法曹の物語』(神野潔著)を企画しました。著者の神野先生は千葉高出身ではありませんが、昭和29

年卒の中村浩紹先輩が理事長をされている人権擁護協力会発行の『人権のひろば』で三淵嘉子について書かれているのを見つければ、神野先生にお声がけして企画が実現しました。法曹界のトップ、検事総長と日弁連会長に千葉高OGの先輩方が就任されたタイミングでもあり、千葉高のご縁を感じながら仕事に挑んでいますが、今後はさらに同期の活躍も増えてきそうです。

●平成18年卒

戸澤 庸子

今年の同級生紹介は水戸部真里さんです。立教大学文学部を

卒業後、東京大学大学院学際情報学府を経て2015年に有限責任事業組合スタジオリンフイニティに組合員として参画。官公庁に向けた広報支援事業を立ち上げ、行政事業レビューや審議会といった会議のオンライン会議運営・YouTubeライブ配信に取り組んでいます。

―県千葉での経験や思い出は？
市川市から1時間半程をかけて通学していました。英語の石井豪先生から「毎日が旅だね」とお声がけいただいたことが思い出に残っています。

強歩大会で九十九里浜に行ったり、県内各地の友人ができた、バドミントン部の活動を通じて、自分が認識する世界が一気に広がりました。また個人的な先生方の授業や文学部での創作活動によって、考え方の基礎的な部分が形作られたように思います。

今思えば、とても多くの刺激と経験が得られた3年間でした。―今後やりたいことや目標は？
公私ともに、コロナ禍を一気に駆け抜けた日々が落ち着いてきたので、新しいことに取り組んでいきたいです。たとえば映像や音響技術にかかわる物理や数学を学び直したり、コンテンツ

面でより高い価値を提供できたらと思っています。

―千葉高生へのメッセージ
目的が決まっている人は一直線に。まだ目的が見えていない人は、周りにある新しい事やチャンスに恐れず挑戦し、思う存分に遠回りをしてください。後々、色々なことが繋がって道ができていきます。

●令和5年卒

成人記念第1回同期会

第1期同窓会会長

石川 ジェローム

令和7年1月11日(土)、ホテルグリーンタワー幕張にて、令和5年卒業生の成人記念第1回同期会を開催いたしました。

まず初めに、本会の開催にあたり多大なるご尽力を賜りました皆様に、75期生を代表して心より感謝申し上げます。今回の同期会は、千葉県立千葉高等学校のご支援のもと実現することができました。このような素晴らしい会を開いてくださったことに、75期生一同、心より御礼申し上げます。特に、準備にあたりご指導いただいた阿佐事務局長、土屋事務局次長をはじめとする千葉高校の諸先輩方には、

深く感謝申し上げます。例年利用していた会場が日程の関係で使用できず、新たな会場を探さなければならぬ状況の中、多大なご尽力をいただきました。また、初めての開催で戸惑うことも多かった同窓会委員に対し、温かく丁寧にご指導いただきましたこと、心より感謝申し上げます。お忙しい中、誠にありがとうございます。さらに、約1年前からの事前準備から当日の運営まで、多くの場面で支えてくださった75期同窓会役員の皆様、突然のお願いにもかかわらず快く引き受けてくださった司会・会場誘導担当の皆様にも、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今回の同期会には、林同窓会会長をはじめとする同窓会役員の皆様5名、川島先生をはじめとする恩師の先生方16名、そして同期250名、総勢271名にご参加いただきました。お忙しい中ご出席いただき嬉しく存じます。さて、私たち75期生が卒業してから約2年が経ちました。振り返れば、5年前



の4月、新型コロナウイルスの流行の中、体育館でマスク越しに同期と対面し、1メートルの間隔が空けられた座席に座って入学式を迎えました。先の見えない状況の中で高校生活が始まり、6月まで休校・分散登校の日々が続き、同期全員と顔を合わせることも叶いませんでした。はじめての文化祭も中止となり、不安ばかりが募る中、私たちは「できないことを悲観するのではなく、制限の中でもできることを模索する」姿勢で高校生活を歩んできました。先生方のお力添えもあり、合唱祭、体育祭、修学旅行、文化祭を、従来の形とは異なりながらも開催すること

ができました。そうして学年としての絆を深めながら、それぞれの道へと進みました。卒業からの2年間、新たな環境でさまざまな経験を積んできました。新しい出会いに恵まれた一方、心の奥では千葉高の仲間存在を感じ、高校生活がかげがえのない宝物だったと改めて実感する日々でした。そのため、今回の同期会はとても楽しみであると同時に、かつて笑っていた友人たちが変わってしまったのではないかという不安もありました。しかし、当日を迎え、成長しながらも変わらぬ心を持つ友人たちと再会し、思いつきや近況報告、将来の話に

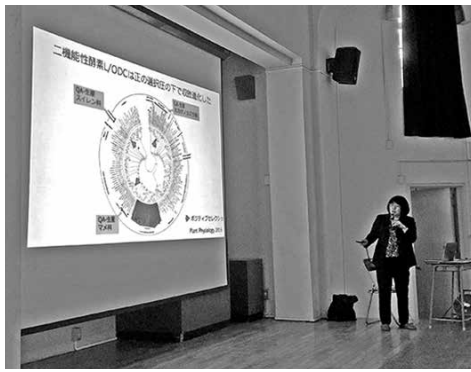
花を咲かせ、かけがえない時間を過ごすことができました。改めて、千葉高校に入学して本当に良かったと感じる一日となりました。今回の開催は10年後を予定しております。さらに成長した友人たちと再会できることを、今から楽しみにしております。末筆ながら、本会の開催にご協力いただいたすべての皆様に改めて感謝を申し上げます。第一回同期会のご報告とさせていただきます。

同窓会の母校支援活動 社会人講演会への講師派遣

令和6年度 社会人講演会

今年度も同窓会の先輩方に御協力いただき、社会人講演会を実施することができました。

本号2頁で校長先生が触れておられるように、6月には高校1年生を対象に昭和57年卒の山崎真巳千葉大学大学院薬学研究院教授による「くすりを作る植物を科学する」と題した講演が行われました。



また、10月には高校2年生を対象に、平成11年卒から26年卒にわたる幅広い年代、様々な職業の先輩9人にお集まりいただき、生徒達が自分の聞きたい先輩の下に集まりお話を伺うというスタイル



ルの講演会が行われました。(講師のお名前は2頁参照)

普段聞くことのできない貴重なお話をいただき、職業観や生き方についての考えを養う機会になりました。その様子の一部として、ここで、高校2年生の生徒による感想の一部をご紹介します。(敬称略)

感想 ①

公認会計士志望である自分にとって有益な内容が多く、大学選びから、将来の会計業務まで、様々な経験を拝聴することができて大変参考になりました。これからの時代は、資格を取って監査業務をするだけでなく起業など資



格を活かしたうえでその他の道に進む人もいることや、AIの活用などで理系の会計士も活躍していることを知り、ただ資格を取るだけでなく更に自分の長所を伸ばしていく必要があるように感じました。(山内先輩の講演)

感想 ②

弁護士は裁判で弁護をすることだけが仕事だと思っていましたが、危機管理や企業法務など様々な仕事があるとわかり、驚きました。坂尾さんは様々な経験をされているということが印象に残りました。私も色々な経験をすることを大切にしたいです。また、自分は英語が苦手なのですが、それでも留学してみたいと感じました。新たなことや苦手なことに挑戦する意義がわかり、大変参考になりました。ありがとうございます。(坂尾先輩の講演)

令和7年度 定時理事会報告

令和7年1月18日(土) 午後2時

定時に母校大会議室にて、母校の高梨祐介校長、尾留川聡副校長、押塚法子教頭、古屋里江子事務主幹をお迎えし、理事役員47名、校内事務局の先生方4名の55名が出席して開催いたしました。

川島康行事務局次長の司会で、林孝二郎会長の挨拶、高梨祐介校長先生より母校の近況報告を含んだご挨拶をいただき、林会長が議長になり議事に入りました。議題は次の5議案でした。

議案1 令和6年度事業報告

年初1月6日に令和4年卒74期生成人記念同期会、20日に定時理事会を開催。2月3日に総会・懇親会を開催。3月卒業記念品(卒業証書ホルダー)の贈呈。5月同窓会報53号の発行並びに6、350部の個別送付。2月、6月、11月に常務役員会を実施。その他卒業生講演会への協力、令和7年に向けた成人記念同期会や総会・懇親会の準備を進めました。

議案2 令和6年度決算報告並びに監査報告

20頁掲載の決算書をご参照ください。

名簿管理システム整備費が0円となっておりますが、年末ギリ

ギリの見積りで、請求が年越しとなったため、令和7年度の支出に繰越となっております。

議案3 令和7年度事業計画

1月11日令和5年卒75期生成人記念同期会、今年は日程の関係で京成ホテルミラマールが取れなかったため、ホテルグリーンタワー幕張で開催。同18日定時理事会開催。2月1日総会・懇親会を開催。3月卒業記念品寄贈。4月に同窓会報54号の発行並びに6、500部の個別発送予定。6月と10月に卒業生講演会。常務役員会をメンバーを常設副委員長まで拡大し、年3回定例で行います。その他、来年に向けた成人記念同期会や総会・懇親会の準備を進めてまいります。

議案4 令和7年度予算

令和7年度会計予算は21頁記載の通りです。

名簿管理システム整備費に600万円を計上しておりますが、データベース設置から10年近くが経ち、バージョンアップの大規模改修が必要なためです。また、常務役員会のメンバーを拡大するため、会議費予算を増やしています。

議案5 会則並びに細則一部改正案・役員一部変更案

会則の改正では、同窓会組織・運営の強化のため、常務役員会のメンバーを常設副委員長まで広げました。また、事務局次長を2名制とし、従来の校内事務局のまとめ役の他、校外から1名を選び、

事務局機能を強化することとした。

これに伴い、新たに就任した土屋事務局次長(昭和57年卒)、御園生名簿委員長(昭和54年卒)、内田名簿副委員長(昭和48年卒)、東広報副委員長(平成12年卒)より挨拶がありました。

また細則の改正では、総会・懇親会の開催にあたり、突発的な事象による中止や出席者大幅減に対し、幹事年度に過度の責任を負わせることにならないよう、常務役員会と幹事年度で協議して当たるよう明文化しました。

活発な質疑がありました。各議案とも全会一致で承認されました。

昭和29年卒の中村理事から、3年後に迎える創立150周年記念事業をしっかりと進めて欲しい旨発言があり、高梨校長先生から、同窓会と協力して、しっかり準備を進めたい旨、回答がありました。

議案審議終了後、その他報告事項として同窓会名簿管理システムのバージョンアップの件、同窓会報の配布・寄付状況、各地域・職域葛城会、クラブOB・OG会、学年同期会の活動・開催予定及び叙勲・褒章、役員・理事の逝去等についての情報確認を行いました。

議事終了にあたり、2月1日には総会・懇親会が従来通り開催されること発表され、昭和58年卒幹事団の道添宏樹様から挨拶がありました。

令和7年度 同窓会総会・懇親会

令和7年2月1日(土)午後4時より京成ホテルミラマールにおいて、母校の高梨祐介校長、尾留川聡・大谷照久副校長、塚法子教頭、古屋里江子事務主

幹をお迎えし、同窓会員309名が出席して開催いたしました。

川島事務局次長の司会で、林孝二郎会長の挨拶、高梨校長先生より母校の近況報告を含んだご挨拶をいただき、その後1月18日に開催した令和7年度定時理事会で承認された各議案の報告が阿佐幸雄事務局長及び岡田

正大会計により行われ、総会は終了しました。

続いて還暦年度の昭和58年卒が運営し、平成14年卒フリーアナウンサーの笠井さやかさんが司会進行する懇親会に入りました。会の冒頭、昭和58年卒の高野元さんによる「ALSのおはな

し」、御巫(みかなぎ)由紀さんによる「バラの研究をしていて思いついたこと」の2つの講演が行われました。お二人の経験に基づく貴重なお話に大変感銘を受けました。

黙祷に続いて58年卒の道添宏樹代表世話人挨拶、森茂同窓会副会長の乾杯の音頭で、歓談と

2024(令和6)年度 同窓会会計決算報告書

令和6年1月1日～令和6年12月31日

I. 一般会計

1. 収入の部

総額 14,901,858 円

区分	予算額	収入額	増減	備考
繰越金	11,424,174	11,424,174	0	
同窓会入金	1,600,000	1,574,000	-26,000	
寄付金	0	458,000	458,000	40年同期会328,000円・57年同期会130,000円
会報寄付金	1,200,000	1,337,000	137,000	
名簿売上金	54,000	108,000	54,000	
雑収入	826	684	-142	預金利息
計	14,279,000	14,901,858	622,858	

2. 支出の部

総額 3,885,189 円

区分	予算額	支出額	予算残額	備考
(1) 事業費	4,550,000	3,067,672	1,482,328	
卒業記念費	150,000	138,259	11,741	卒業証書ホルダ
会報発行費	600,000	563,200	36,800	同窓会報53号印刷
会報配布費	1,400,000	1,387,958	12,042	同窓会報個別53号個別発送
卒業生講演会費	150,000	90,000	60,000	高校総合学習
学校活動振興費	100,000	60,000	40,000	中学校社会人講演会
委員会活動費	50,000	14,053	35,947	委員会打ち合わせ
支部援助費	300,000	30,000	270,000	葛の花会通信費補助等
成人記念同期会支援費	1,000,000	784,202	215,798	74期成人記念同期会開催
名簿管理システム整備費	800,000	0	800,000	名簿管理システム維持
(2) 運営費	1,030,000	787,517	242,483	
会議費	100,000	134,112	-34,112	理事会・常務役員会
印刷費	200,000	159,280	40,720	総会理事会資料等印刷
通信費	350,000	275,103	74,897	総会・理事会案内はがき・電話料
慶弔費	50,000	0	50,000	弔電・生花
渉外費	150,000	150,000	0	会長渉外費
事務局関係費	50,000	38,160	11,840	ホームページ維持管理・事務用品
事務局整備費	80,000	0	80,000	事務局通信機器等整備
雑費	50,000	30,862	19,138	同窓会入金返金・電気代
(3) 母校支援金	300,000	30,000	270,000	部活動支援
(4) 予備費	8,399,000	0	8,399,000	
計(1)+(2)+(3)+(4)	14,279,000	3,885,189	10,393,811	

3. 差引残高(次年度繰越金)

総額 11,016,669 円

II. 同窓会基金

1. 収入の部

総額 106,087,751 円

区分	予算額	収入額	増減	備考
(1) 繰越金	106,085,950	106,085,950	0	
(2) 特別収入	0	0	0	
(3) 雑収入	2,000	1,801	-199	定期預金利息
計	106,087,950	106,087,751	-199	

2. 支出の部

総額 0 円

区分	予算額	支出額	予算残額	備考
(1) 一般会計への繰入金	0	0	0	
(2) 事業費	0	0	0	
(3) その他	0	0	0	
計	0	0	0	

3. 差引残高(次年度繰越金)

総額 106,087,751 円

繰越金内訳 清水基金10,101,186円 石田基金95,986,565円

以上、報告いたします。

令和7年1月10日

会計: 岡田 正大 中川 朱理

監査の結果、適正であったと認めます。

令和7年1月10日

監事: 小澤 晃 山本 康好



なりました。
 昨年から飲酒・席移動OKの懇親会が復活し、全体の1/4近くが幹事学年未満、また初参加が40人以上と若い参加者の増えた会場は熱気に包まれ、テーブルを離れ、そこかしこに出来

た会話の輪で大いに盛り上がりました。
 恒例の校歌は斎藤喜久三、伊藤和夫、山本誠司の三先輩によるトランペットを伴奏とした旧制千葉中校歌、ピアノ演奏CDを伴奏にし、昭和58年卒田中良

明世話人の指揮により千葉高校歌を声高らかに歌い、昭和58年卒山下直行代表世話人の音頭により、千葉中・千葉高へのエールで締めました。
 最後に幹事年度の盾が、昭和58年卒山下直行代表世話人から

次回還暦年度で幹事学年となる昭和59年卒を代表して折原亮さんに引き継がれました。
 折原さんからは、来年も2月第1土曜日に開催するので、今後準備を進めていく旨、挨拶がありました。

(4) 2025(令和7)年度 同窓会会計 予算

令和7年1月1日～令和7年12月31日

I. 一般会計

1. 収入の部

(単位:円)

区分	予算額	前年度決算額	比較増減	備考
繰越金	11,016,669	11,424,174	-407,505	
同窓会入会金	1,600,000	1,574,000	26,000	
寄付金	0	458,000	-458,000	
会報寄付金	1,200,000	1,337,000	-137,000	
名簿売上金	54,000	108,000	-54,000	
雑収入	331	684	-353	
収入合計	13,871,000	14,901,858	-1,030,858	

2. 支出の部

(単位:円)

区分	予算額	前年度決算額	比較増減	備考
(1) 事業費	9,900,000	3,067,672	6,832,328	
卒業記念費	150,000	138,259	11,741	卒業証書ホルダー
会報発行費	600,000	563,200	36,800	同窓会報第54号印刷(8,500部前年同)
会報配布費	1,500,000	1,387,958	112,042	同窓会報第54号個別発送(6,500部)
卒業生講演会費	150,000	90,000	60,000	高校 総合学習
学校活動振興費	100,000	60,000	40,000	中学校 社会人講演会
委員会活動費	100,000	14,053	85,947	委員会会議費等
支部援助費	300,000	30,000	270,000	葛の花会通信費補助等
成人記念同期会支援費	1,000,000	784,202	215,798	75期成人記念同期会
名簿管理システム整備費	6,000,000	0	6,000,000	名簿管理システム維持
(2) 運営費	1,080,000	787,517	292,483	
会議費	150,000	134,112	15,888	理事会・常務役員会
印刷費	200,000	159,280	40,720	総会・理事会資料印刷
通信費	350,000	275,103	74,897	総会・理事会案内八ガキ、電話料
慶弔費	50,000	0	50,000	弔電・生花
渉外費	150,000	150,000	0	会長渉外費
事務局関係費	50,000	38,160	11,840	ホームページ維持管理、事務用品
事務局整備費	80,000	0	80,000	事務局什器等整備
雑費	50,000	30,862	19,138	振込手数料等
(3) 母校支援金	300,000	30,000	270,000	部活動支援
(4) 予備費	2,591,000	0	2,591,000	
支出合計	13,871,000	3,885,189	10,229,213	(1)+(2)+(3)+(4)

II. 同窓会基金

1. 収入の部

(単位:円)

区分	予算額	前年度決算額	比較増減	備考
(1) 繰越金	106,087,751	106,085,950	1,797	
(2) 特別収入	0	0	0	
(3) 雑収入	2,000	1,801	203	利息
収入合計	106,089,751	106,087,751	2,000	

2. 支出の部

(単位:円)

区分	予算額	前年度決算額	比較増減	備考
(1) 一般会計への繰入金	0	0	0	
(2) 事業費	0	0	0	
(3) その他	0	0	0	
支出合計	0	0	0	

次期繰越金	106,089,751	106,087,751	2,000	
--------------	--------------------	--------------------	--------------	--



千葉高創設以来、葛城台から数多の卒業生が巣立っていったが、この「葛城入脈」では、今まさに活躍している卒業生へのインタビューを通じて、チャレンジ精神の源流に迫る。今回は、コロナ禍で工夫をしながら挑戦を続け、奇しくも昨シーズン、大学ラグビー最高峰の関東大学対抗戦Aグループで活躍した3人のラグビー部員の物語である。
聞き手は東 寿浩(平成12年卒)

ラグビー部入部のきっかけ

— 皆さんは千葉高ラグビー部の同期ということですが、そもそもどうしてラグビー部に入ろうと思ったのですか？

矢崎隼太(以下、矢崎) 僕はもともと小学生の時から父親の薦めでラグビーをやっていて、中学生の時も、土日にクラブチームで活動していたので、入学式の前から経験者ということもあって声をかけてもらい、見学して練習に参加していました。

小本曾愛珠(以下、小本曾) 私は中学生の時は剣道をやっていたものの、選手は向いていないと思い、高校では部活に入るつもりはなかったのですが、二つ上の姉も千葉高にいて、姉の親友がラグビー部のマネージャーで、勧誘されたこともあって「ここで3年間マネー

ジャーをやるのもいいかな」と思いました。

本郷雄斗(以下、本郷) 僕は中学生の時は野球部だったのですが、その時の先輩で千葉高ラグビー部に先に入っていた古川拓人先輩から誘われたのがきっかけです。当初は悩んでいたのですが、熱心に勧誘いただいて、入部を決めました。僕たちの代は比較的多めでしたが、千葉高ラグビー部は全体的に部員数が多いわけではないので、その分試合に出られるというのは魅力的でしたね。

コロナ禍でも「ラグビーを止めるな」

— しかし、いよいよ最終学年という時に、コロナ禍ですか？

矢崎 あの時はしばらく通学もできず、部活も3月から6月半ばまで休止になってしまいました。仕

方ないので各自でランニングなどのトレーニングを行っていました。
— コンタクトスポーツでそれはかなりきついですよね。
本郷 家が近所の古川先輩が持っていた筋トレ器具をお借りして、学校が再開するまでは自宅で筋トレをしていました。

小本曾 当時は本当に手探りでした。警戒レベルに応じて状況を見ながら、感染対策にも配慮して少しずつ練習も再開していききました。毎日検温や手洗いを徹底していましたね。接触プレーができるようになったのは夏休みからでした。

— 「パンキシャー！」にも出ていましたよね。

矢崎 ラグビー元日本代表の野澤武史さんが始めた「#ラグビーを止めるな」という活動があり、それに乗ってプレーの動画を投稿したのですが、それが元日本代表キャプテンの廣瀬俊朗さんの目に留まり、コメントをいただきました。その時の話が放送されましたが、かなりモチベーションが上がりました。

— 小本曾さんも出ていましたね。SNS投稿の仕方についてコメントして、数字を半角に入力させ直しさせているシーン。

小本曾 今でもあの時のことが話題になることが多くて、恥ずかしいです。まさか、あのシーンを使

うとは全然思っていなかったの(笑)。
— しっかりしている感じがすごく印象的なシーンでしたね。

そして、大学ラグビーへ

— 最後の試合まで、なかなか時間がなかったわけですよね。

矢崎 本来、春季大会と夏合宿があるところですが、それがなくて練習試合をちよつとやるぐらいで、時間はちよつと足りなかったですね。

本郷 自分は滅茶苦茶悔しかったです。高校最後の試合は東京学館浦安戦だったのですが、新人戦の時に勝っていたのに、勝てなかった。不完全燃焼だったこともあって、「このままでは終われない」と思い、大学でも続ける決意をしました。

— 大学も皆さんそれぞれ別のところに行かれたわけですが、それでも、大学を選んだポイントなどを教えてくださいませんか？

本郷 国立大学で、しかも強豪というところでしょうか。ラグビー強豪校のほとんどが私大ですが、その中で数少ない国立大学だということに惹かれました。また、筑波は部で寮を持っていないので、各自が自立して生活をして、自分たちでトレーニングや食事を考えたりするなど、選手たちに任せられている点も魅力的で、その環

境で4年間生活して、ラグビーに打ち込むことができた人間として成長できると思い、筑波大学を選びました。

— とはいえ勉強時間が限られている中で現役で筑波大学に入るのも大変だったと思いますが、何か秘訣とかは？

本郷 僕はもう本当に偶然受かっただけですが、とにかく短期決戦で頑張るしかなかったです。他の学生と比べたら勉強のスタートも遅いので、部活以外の時間は全部勉強すると決めて、何とか食らいついていったというところです。

小本曾 私は大学選びでずっと悩んでいましたが、部活でやったテーピングなどに関心があったので、理学療法系の学部とスポーツ科学部を中心に受けたんですけど、2人がラグビーを大学でも続ける意思を表示したこともあって、私も大学でもラグビーに関わりたいたいという気持ちになり、合格をいただいた早稲田に決めました。

矢崎 大学でラグビーをやるうと思つたのは、高校ですごくラグビーが好きになったことが一番大きいんです。今思うと、中学まではあまり本気じゃなかった。でも、千葉高ラグビー部という素晴らしい環境でプレーできて、すごくラグビーが好きになったので、大学でも続けることにしました。最初



Profile

小木曾愛珠 (おぎぞ・まなみ) [写真中央]
千葉中8期生。中学では剣道部、高校でラグビー部マネージャー。現在、早稲田大学スポーツ科学部に在学中。早稲田大学ラグビー蹴球部トレーナー。

本郷雄斗 (ほんごう・ゆうと) [写真右側]
中学では野球部で、千葉高でラグビーを始める(副将)。現在、筑波大学大学院理工情報生命学術院修士課程に在学中。筑波大学ラグビー部でのポジションはLO。

矢崎隼太 (やざき・はやた) [写真左側]
小学生の時にラグビーを始め、千葉高ラグビー部主将を務める。現在、慶應義塾大学法学部政治学科に在学中。慶應義塾体育會蹴球部でのポジションはLO/FL。

の、落ちてしまつて浪人したわけですが、就職など大学の先の進路選択の幅も考えてみて、慶應を第一志望に切り替えました。早稲田や明治よりスター選手は少ないですが、泥臭く這い上がる感じのスタイルにも共感を持ったのも大きな理由です。

—— 小木曾さんは、大学ではマネージャーではなく、トレーナーになつたのですか。

小木曾 そうです。トレーナーは選手のトレーニングメニューを組んだり、体のケアをしたりしますが、早稲田のラグビー部のトレーナーになるには面接がありました。もともとトレーナー志望者が15人くらいいたのですが、4人に絞られました。面接では、なかなか答えるのが難しい質問もあったのですが、熱量を見られていたの

だと思っています。

—— トレーナーになるために必要な知識などはあったのですか？

小木曾 ストレングス、解剖学やリハビリテーションなどがありますが、必要な知識は自分たちで勉強しながら身につけていきました。

最後の瞬間まで完全燃焼！

—— ラグビーに大学生活を捧げたと言つても過言ではないと思いますが、特に思い出があるのは？

小木曾 やはり今回(2024年度)の全国ですね。「今年こそは早稲田が優勝するだろう」と信じて疑わなかったのですが、決勝で帝京に破れてしまいました。とても悔しかったです、最後までやりきったな、と。

本郷 自分は2022年。筑波が

全国でベスト4に進出し、準決勝で帝京に敗れましたが、国立競技場でプレーできたことが思い出深いです。あの景色を忘れることはできないと思います。

—— そして、2024年9月15日、関東大学対抗戦の慶應義塾対筑波。試合の二日前に選手発表で矢崎さん、本郷さんの二人とも19番16・23番がリザーブで、途中出場の可能性が高いに選ばれ、ラスト10分足らずでしたが、ついにお二人が対戦できたのです。

本郷 お互い大学でもラグビーをやるって決めてたときから、目標というか夢というか、一緒に対戦したいと思つていました。3年間ありましたが、なかなか実現しなくて、ラストチャンスで実現しました。ノースサイドで握手したときは、ようやく、目標を達成できたな、という気持ちでした。

矢崎 そうですね。本郷が1年生から対抗戦に出ている中で、僕は1、2年生の間は出ていなかったのですが、本郷が先に最終学年を迎えた2024年、「絶対今年こそは」という気持ちですごく強かったです。そして、当日は「ついにここまで来たな」っていう思いが溢れてきて。試合としては負けて

しまったので悔しかったです。当日応援に来てくださった方々、ずっと期待してくれていた方々に少しは恩返しできたのかな、と。



(写真はヘッドキャップ寄贈時。左から本郷さん、矢崎さん)

—— お互い「県千葉」と書かれたヘッドキャップをかぶつてプレーされてきましたね。ラグビー部のOB会から寄贈されたと伺いました。しかも、あの時の試合の実況をしていたのが、「#ラグビーを止めるな」の活動にも関わつてくれた長澤洋明アナウンサーだということも印象深いですね。

これからの希望と後輩たちへのメッセージ

—— これから挑戦してみたいことはありますか？

矢崎 僕は浪人したので、今年が最終学年です。今年は大学日本一という目標を掲げたので、悔いの無いようにやりたいです。チームに貢献するという意味では、これまではまだまだだったので、今年こそはと思つています。

本郷 僕は大学院に進学しますが、これからは自分の経験を還元していきたいですね。それこそ、高校生にラグビーを教える機会などがあればと思います。

—— 素晴らしい！では最後に、後輩たちへのメッセージをお願いします。

矢崎 部活も大事ですが、勉強もしっかりやりましょう(笑)。ともあれ、一番熱中したいのを見つけて、それを楽しむ、没頭するのが一番充実かなと。好きなことに取り組みればいいんじゃないかな、と思います。

小木曾 ちょっとしたきっかけで選択したものが、何か大きなものに繋がるということがあるので、少しでも惹かれるものがあつたら挑戦してみたいと思います。何かをともにした仲間、時間を経つても良い仲間であり続けると思っているので、そういった体験を大事にしてほしいです。

本郷 不安もありましたが、大学ラグビーを4年間やりとげて、人生を大きく変えてもらったと思つています。ちょっとでもやってみたいという気持ちがあつたら、大学はいろいろな挑戦ができるとてもいい場所なので、是非やってみてください。

—— ありがとうございます。

令和7年度 本部役員

☆は新任

- 会長 林 孝二郎(昭39)
- 副会長 森 茂(昭44)
- 戸谷 久子(昭46)
- 先田幸次郎(昭49定)
- 池田 知行(昭54)
- 高梨 祐介(学校長)
- 顧問 山本 康昭(昭38)
- 監査 小澤 晃(昭41)

《事務局》

- 事務局長 阿佐 幸雄(昭35)
- 事務局次長 川島 康行(昭58)
- ☆土屋 保之(昭57)
- 事務局会計 中川 朱理(平12)
- 岡田 正大(平30)

《常設委員会》

- 総務委員長 上原 和男(昭46)
 - 総務副委員長 大澤 正明(昭55)
 - 名簿委員長 ☆御園生博文(昭54)
 - 名簿副委員長 ☆内田 智子(昭48)
 - 企画委員長 豊田 聡(昭57)
 - 企画副委員長 東 寿浩(平12)
 - 広報委員長 田中 航祐(平20)
 - 広報副委員長 ☆東 寿浩(平12)
- ※この他、参与の方々や事務局員等
多くの方がおります。

チャレンジ応援基金 について

千葉県では、魅力ある学校づくりや各学校における特色ある活動を推進するにあたり、地域住民や卒業生など、様々な方から応援いただくために、令和4年度に「千葉県県立学校チャレンジ応援基金」を創設しました。皆様からの御寄付は「教育活動プラン」に基づき活用されます。本校でも、プランを策定し、教育活動を充実させるため、次の通り、寄附金を募ることといたしました。

千葉中高の教育活動充実プラン (キャリア教育推進プラン)

短期留学や海外研修に係る費用の補助、実力テスト受験料の補助、外部講師による講演会の実施

【寄附募集額及び募集期間】

募集額 2,280万円
募集期間 令和10年3月

寄附の方法等詳細につきましては、千葉県教育委員会ホームページの、「千葉県県立学校チャレンジ応援基金」のページをご参照ください。



千葉県立千葉高等学校

◆学校の近況報告

編集後記に代えて

同窓会広報委員長

主幹教諭 田中航祐

(平成20年卒)

千葉高校同窓会の皆様には、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。本校の教育活動では、自主自律の精神を養うことを大事にしていますが、それに関して印象的なことがあったので紹介いたします。

青葉の森で行われた体育大会で、昨年には見られなかった風貌の生徒たちが。そう、高校3年生を中心とした応援団が結成されていたのです。体育大会前から何やら大きな声で練習している様子は聞こえていたのですが、応援団だったのか。団長の、熱く気の利いた宣誓にはじまり、カッコいい応援パフォーマンスに圧倒されました。高3生が中心となっているのを見て、体育大会の高3と言え、だらしのないイメージしかない、元体育大会実行委員長としては、(みなさんの時はどのような体育大会でしたか? だらしのないのは私の学生時代だけかもしれませんので、ご心配なさらず。)少しジーンときてしまいました。

なんでも、聞くところによる



と、自分たちから応援団をやるうと集まったとか。2学期も中盤に差しかかり、勉強も忙しい中、ただ騒ぎたいだけではなく、練習もしての取り組みを見ると、自主自律の精神を体現しているようで誇らしくなりました。生徒の主体性を育むというのはよく願われることですが、それを指示してしまうと既に主体性はなくなってしまうので容易なことではありません。そんな中の嬉しい瞬間でした。

葛城だより

◎令和6年度受章者

心よりお祝い申し上げます。

(◎連絡のあった方のみ掲載)

- 瑞宝双光章 石橋敏夫(昭29)
 - 瑞宝双光章 鈴木弘道(昭29)
 - 瑞宝双光章 齊藤善継(昭30)
 - 瑞宝双光章 宍倉正胤(昭30)
 - 瑞宝双光章 三宅 茂(昭30)
 - 瑞宝中綬章 田邊政裕(昭42)
 - 瑞宝双光章 嶋田信昭(昭46)
- 《敬称略・卒業年順》

◎逝去者(役員・理事)

謹んでご冥福をお祈り致します。

(◎連絡のあった方のみ掲載)

- 中村敏信(昭32) 6年9月25日
 - 土岐紘史(昭35) 6年1月17日
 - 浅羽洋子(昭38) 6年12月12日
 - 川野政広(昭47) 6年11月25日
- 《敬称略・卒業年順》

◎寄付者(同窓会宛)

心より御礼申し上げます。

●昭和40年卒同期会有志一同 328,000円

●昭和57年卒同期会

(令和6年度総会・懇親会幹事年度) 189,586円

《敬称略・順不同》

題字揮毫 辻元大雲氏

本名：洋一 昭和37年卒